



# Cisco BroadWorks 版 Webex 設定ガイド

## ド

リリース 44.7

ドキュメントバージョン 1



## 目次

<b>1 変更の概要</b> .....	<b>1</b>
1.1 2024年7月44.7のリリースの変更.....	1
1.2 2024年6月44.6のリリースの変更.....	1
1.3 2024年5月44.5のリリースの変更.....	1
1.4 2024年4月44.4のリリースの変更.....	1
1.5 2024年3月44.3のリリースの変更.....	1
1.6 2024年2月44.2のリリースの変更.....	2
1.7 2024年1月43.1のリリースの変更.....	2
1.8 2023年12月43.12のリリースの変更.....	2
1.9 2023年11月43.11のリリースの変更.....	3
1.10 2023年10月43.10のリリースの変更.....	3
1.11 2023年9月43.9のリリースの変更.....	3
1.12 2023年8月43.8のリリースの変更.....	3
1.13 2023年7月43.7のリリースの変更.....	3
1.14 2023年6月43.6のリリースの変更.....	3
1.15 2023年5月43.5のリリースの変更.....	4
1.16 2023年4月43.4のリリースの変更.....	4
1.17 2023年3月43.3のリリースの変更.....	4
1.18 2023年2月43.2のリリースの変更.....	4
1.19 2023年1月43.1のリリースの変更.....	5
<b>2 設定ファイルの変更</b> .....	<b>6</b>
2.1 リリース用の設定ファイルの変更 44.7.....	6
2.2 リリース用の設定ファイルの変更 44.6.....	6
2.3 リリース用の設定ファイルの変更 44.5.....	6
2.4 リリース 44.4 の設定ファイルの変更.....	7
2.5 リリース 44.3 の設定ファイルの変更.....	7
2.6 リリース 44.2 の設定ファイルの変更.....	8
2.7 リリース 44.1 の設定ファイルの変更.....	9
2.8 リリース 43.12 の設定ファイルの変更.....	9

2.9	リリース 43.11 の設定ファイルの変更 .....	11
2.10	リリース 43.10 の設定ファイルの変更 .....	11
2.11	リリース 43.9 の設定ファイルの変更 .....	11
2.12	リリース 43.8 の設定ファイルの変更 .....	12
2.13	リリース 43.7 の設定ファイルの変更 .....	12
2.14	リリース 43.6 の設定ファイルの変更 .....	12
2.15	リリース 43.5 の設定ファイルの変更 .....	13
2.16	リリース 43.4 の設定ファイルの変更 .....	13
2.17	リリース 43.3 の設定ファイルの変更 .....	15
2.18	リリース 43.2 の設定ファイルの変更 .....	15
2.19	リリース 43.1 の設定ファイルの変更 .....	15
<b>3</b>	<b>紹介 .....</b>	<b>16</b>
<b>4</b>	<b>のインストール .....</b>	<b>17</b>
4.1	ローカライズされたクライアントのダウンロード .....	17
4.2	Android クライアント .....	17
4.3	iOS クライアント .....	17
4.4	デスクトップ クライアント .....	18
<b>5</b>	<b>デバイス管理 .....</b>	<b>19</b>
5.1	デバイス管理タグ .....	19
5.2	デバイス タイプ選択の部分一致の強化 .....	20
5.3	クライアントの設定 .....	21
5.4	config-wxt.xml の展開 .....	21
5.5	設定ファイル (config-wxt.xml) .....	21
5.6	システム デフォルト タグ .....	22
5.7	Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ .....	23
<b>6</b>	<b>カスタムタグ .....</b>	<b>26</b>
6.1	一般的な機能 .....	41
6.1.1	SIP サーバーの設定 .....	41
6.1.2	SIP Over TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル .....	44
6.1.3	SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー .....	47

6.1.4	TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制.....	48
6.1.5	SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト.....	50
6.1.6	動的 SIP プロキシ検出.....	51
6.1.7	SIP の優先ポート使用状況.....	58
6.1.8	SIP フェールオーバーとフェールバック.....	58
6.1.9	SIP SUBSCRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行.....	64
6.1.10	REGISTER で P-Associated-URI を使用する.....	65
6.1.11	SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー.....	66
6.1.12	SIP UPDATE サポート.....	66
6.1.13	レガシー SIP INFO FIR.....	67
6.1.14	NAT トラバーサル SIP report 管理.....	67
6.1.15	SIP セッション ID.....	68
6.1.16	着信通話拒否の動作.....	69
6.1.17	リアルタイム転送プロトコルのポート範囲.....	69
6.1.18	ICE サポート (Webex Calling のみ).....	70
6.1.19	RTCPのMUX.....	71
6.1.20	転送.....	72
6.1.21	N-way 会議コールと参加者.....	73
6.1.22	コール プル.....	74
6.1.23	コールパーク/保留解除.....	74
6.1.24	通話の統計.....	75
6.1.25	コール自動回復/シームレスなコールハンドオーバー.....	76
6.1.26	通話の録音.....	76
6.1.27	ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ.....	77
6.1.28	Webex Calling のボイスメールの文字起こし.....	80
6.1.29	通話設定.....	80
6.1.30	設定ポータル およびウェブベースの通話設定.....	83
6.1.31	コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト.....	89
6.1.32	XSI ルートとパス.....	89
6.1.33	XSI イベント チャンネル.....	90
6.1.34	コーデックの設定.....	91

6.1.35 SIP-URI ダイヤリング .....	93
6.1.36 すべてのデバイスでの通話履歴 .....	94
6.1.37 ビデオ通話を無効にする .....	94
6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート .....	95
6.1.39 アイデンティティとしての PAI .....	97
6.1.40 画面共有を無効にする .....	97
6.1.41 スпам通話の表示 .....	98
6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張 .....	98
6.1.43 QoS DSCP マーキング .....	99
6.1.44 プライマリプロファイル .....	100
6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ) .....	101
6.1.46 メディア適応とレジリエンス実装 (MARI) .....	102
6.1.47 同じユーザーとの同時通話 .....	104
6.1.48 RTCP-XRについて .....	105
6.1.49 コール転送情報 .....	105
6.1.50 発信者番号 .....	106
6.2 デスクトップのみの機能 .....	109
6.2.1 強制ログアウト .....	109
6.2.2 コールピックアップ .....	110
6.2.3 Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート .....	110
6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ) .....	111
6.2.5 卓上電話制御通話 - 自動応答 .....	112
6.2.6 トーン通知による自動応答 .....	112
6.2.7 卓上電話のコントロール - 通話中コントロール - 会議 .....	113
6.2.8 コールピックアップの通知 .....	113
6.2.9 リモートコントロール イベント パッケージ .....	116
6.2.10 コールキュー エージェント CLID の選択 .....	116
6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ) .....	117
6.2.12 マルチライン - 共有ライン アピランス .....	118
6.2.13 マルチライン - 仮想回線 (Webex Calling のみ) .....	118
6.2.14 リモート ミュート制御 イベント パッケージ (Webex Calling のみ) .....	119

6.2.15	通話を移動.....	120
6.3	モバイルのみの機能.....	123
6.3.1	緊急コール.....	123
6.3.2	コールのプッシュ通知.....	124
6.3.3	単一のアラート.....	127
6.3.4	クリックしてダイヤル (コールバック) .....	127
6.3.5	MNO サポート.....	128
6.3.6	着信発信者 ID.....	134
7	<b>早期フィールドトライアル (ベータ) 機能.....</b>	<b>136</b>
7.1	AI コーデック .....	136
8	<b>Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング .....</b>	<b>137</b>
9	<b>付録A: TLS 暗号.....</b>	<b>145</b>
10	<b>付録B: DM タグプロビジョニング スクリプト .....</b>	<b>146</b>
10.1	デスクトップ.....	147
10.2	モバイル .....	150
10.3	タブレット.....	153
10.4	システム タグ.....	156
11	<b>頭字語と略語 .....</b>	<b>157</b>

## 1 変更の概要

---

このセクションでは、各リリースおよびドキュメントバージョンのこのドキュメントへの変更について説明します。

### 1.1 2024年7月44.7のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版にセクション [AI コーデック](#) を追加。
- 更新されたセクション [6.1.44 プライマリ プロファイル](#) – リリース 43.2 に Webex アプリの動作に関する詳細を削除しました。

### 1.2 2024年6月44.6のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.6](#) を更新しました。 [着信発信者 ID](#) – ネイティブのエクスペリエンスと機能の仕組みに関する詳細を追加

### 1.3 2024年5月44.5のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.1.18 ICE サポート \(Webex Calling のみ\)](#) – NAT64 経由で IPv6 のサポートが追加されました。
- 更新されたセクション [6.1.50 発信者番号](#) – サブセクション [6.1.50.2 リモート発信者 ID 名](#) を追加。

### 1.4 2024年4月44.4のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- [6.1.50.1 発信者 ID \(Webex Calling のみ\)](#) セクションを更新しました。
- 更新されたセクション [リリース 44.3 の設定ファイルの変更](#) – 44.3 のキープアライブアップデートに関する詳細を追加しました。

### 1.5 2024年3月44.3のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.6](#) を更新しました。 [着信発信者 ID](#)

- デスクトップとモバイルに共通するセクション [6.1.50.1 発信者 ID \(Webex Calling のみ\)](#) を移動し、詳細とともに更新しました。
- 更新されたセクション [6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制](#) – カスタムタグを使用して設定可能なキーパリーブの詳細を追加しました。

## 1.6 2024 年 2 月 44.2 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- サブセクションを含むセクション [6.3.6 着信発信者 ID](#) を追加:
  - [6.3.6.1 着信発信者 ID](#)
  - [6.3.6.2 発信者 ID \(Webex Calling のみ\)](#)
- 更新されたセクション [6.2.8 コール ピックアップの通知](#)
  - サブセクション [6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド](#) を追加 - BLF の詳細を移動しました。
  - サブセクション [6.2.8.2 コール ピックアップ グループ \(Webex Calling のみ\)](#) を追加。
- セクション [6.1.49 コール 転送情報](#) を追加。
- セクション [6.1.8.3 IP バージョンを強制する](#) を更新 – 新しい `nat64` モードの詳細を追加。
- 更新されたセクション [6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張](#) – 新しい帯域幅拡張のサポートとノイズ除去の更新の詳細が追加されました。セクション「[PSTN コールの音声強化](#)」がベータ版から削除されました。

## 1.7 2024 年 1 月 43.1 のリリースの変更

このリリースでは、このドキュメントに変更はありません。

## 1.8 2023 年 12 月 43.12 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.1.1 SIP サーバーの設定](#) – 例を更新しました (回線ごとにドメインと外部 ID が追加されました)。
- セクション [6.2.15 通話を移動](#) を追加。
- 更新されたセクション [6.3.5.1 ネイティブ ダイアラーとの通話](#) – セルラー発信コールの設定可能なプレフィックスサポートに関する詳細を追加しました。



- 更新されたセクション [6.1.20転送](#) – 新しい自動保留オプションに関する詳細を追加しました。
- セクション [6.1.48RTCP-XRについて](#) を追加。
- ベータ版の「[PSTN コールの音声強化](#)」セクションを追加。

## 1.9 2023年11月43.11のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.1.8.1SIP フェールオーバー](#) – 登録のクリーンアップとq値の更新に関する詳細を追加しました。

## 1.10 2023年10月43.10のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版から [6.1.29.2ボイスメールへのコール転送](#) セクションに移動しました。
- セクション [6.3.5.2通話中のコントロール](#) を更新しました – 協議転送と別の進行中のコールへの転送に関する詳細を追加しました。
- [6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#) セクションを更新しました – 完全な転送に関する詳細を追加しました。

## 1.11 2023年9月43.9のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.47同じユーザーとの同時通話](#) をベータから移動しました。
- 更新されたセクション [6.1.20転送](#) – 進行中のコールへの転送に関する詳細を追加しました。
- 追加されたセクション [6.2.14](#)
- [リモートミュート制御イベントパッケージ \(Webex Calling のみ\)](#) です。
- ベータ版の「[ボイスメールへのコール転送](#)」セクションを追加。

## 1.12 2023年8月43.8のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版のセクション [同じユーザーとの同時通話](#) を追加しました。

## 1.13 2023年7月43.7のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#) をベータから移動しました。

#### 1.14 2023 年 6 月 43.6 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.46 メディア適応とレジリエンス実装 \(MARI\)](#) をベータから移動しました。
- ベータ版にセクション [MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#) を追加。
- 更新されたセクション [5.4 config-wxt.xml の展開](#) - 構成テンプレートを最新の Webex アプリケーションリリースバージョンで最新の状態に保つための推奨事項が追加されました。

#### 1.15 2023 年 5 月 43.5 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.45 ブロック リスト \(Webex Calling のみ\)](#) を追加。
- セクション [6.1.44 のプライマリプロフィール](#) を更新しました。

#### 1.16 2023 年 4 月 43.4 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- [6.2.8 コール ピックアップの通知](#) セクションを更新しました。コール ピックアップの通知
- セクション [6.2.13 マルチライン - 仮想回線 \(Webex Calling のみ\)](#) を追加。
- ベータ版にセクション [メディア適応とレジリエンス実装 \(MARI\)](#) を追加。

#### 1.17 2023 年 3 月 43.3 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.44 のプライマリプロフィール](#) を追加。
- 更新されたセクション [6.2.12](#)
- [マルチライン - 共有ライン](#) アピアランス です。

#### 1.18 2023 年 2 月 43.2 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.2.12](#)
- [マルチライン - 共有ライン](#) アピアランス [です。](#)
- [6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ \(Webex Calling のみ\)](#) を追加しました。
- [6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制](#) セクションを更新しました。

### 1.19 2023 年 1 月 43.1 のリリースの変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.2.12](#)
- [マルチライン - 共有ライン](#) アピアランス [です。](#)

## 2 設定ファイルの変更

### 2.1 リリース用の設定ファイルの変更 44.7

- [BETA機能] セクションにAIコーデック (xCodec) を追加  
`<services><calls><audio><codecs>`.

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      <codec name="opus" priority="1" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="HP" priority=".99" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="ULP" priority=".98" payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4" payload="" framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
```

### 2.2 リリース用の設定ファイルの変更 44.6

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

### 2.3 リリース用の設定ファイルの変更 44.5

- [Webex Calling のみ] `enable-ipv6-support` 属性を `<protocols><rtp><ice>` タグに追加しました。

```
<config>
<protocols><rtp>
  <ice enabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
    enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
    mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
    service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
    port="%RTP_ICE_PORT_WXT%">
```

- `<machine>` をサブタグとして `<services><calls><caller-id>` セクションにタグ `<remote-name>` が追加されました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <remote-name>
      <machine mode="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%">
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE\_RTP\_ICE\_IPV6\_WXT%
- %CLID\_REMOTE\_NAME\_MACHINE\_MODE\_WXT%

## 2.4 リリース 44.4 の設定ファイルの変更

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ] セクション<caller-id><outgoing-calls>のタグ<additional-numbers>、<hunt-group>、<clid-delivery-blocking>を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%" />
      <call-center
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%" />
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%" />
      <clid-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%" />
    </outgoing-calls>

```

## 2.5 リリース 44.3 の設定ファイルの変更

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ] 新しい <caller-id> セクションに <outgoing-calls> を追加し、サブタグとして <call-center> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <call-center
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%" />
    </outgoing-calls>

```

- <protocols><sip><transports>の下で、各輸送 (%UDP\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%,%TCP\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%と %TLS\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%)を追加しました。 のハードコードされたキーペアライブ有効値を置き換えるために、カスタムタグ

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
  <udp>
    <keepalive enabled="%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      ...
  </udp>
  <tcp>
    <keepalive enabled="%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      ...
  </tcp>
  <tls>
    <keepalive enabled="%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      ...
  </tls>

```

次の%TAG%sが追加されました:

- %UDP\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%
- %TCP\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%
- %TLS\_KEEPALIVE\_ENABLED\_WXT%

## 2.6 リリース 44.2 の設定ファイルの変更

- [モバイルのみ] <services><calls> の <caller-id> セクションを追加しました。サブタグ <incoming-call> と <missed-call> を追加し、両方に対して新しいサブタグ <append-number> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <incoming-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </incoming-calls>
    <missed-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </missed-calls>
```

- [モバイルのみ] [Webex Calling のみ] 新しい <caller-id> セクションに <outgoing-calls> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%"/>
      <call-center
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
      <clid-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```

- セクション <services><calls> にタグ <call-forwarding-info> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <call-forwarding-info
enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ] <services><calls> の下の <group-call-pickup-notifications> セクションを <display-caller> と <max-timeout> をサブタグとして追加しました。また、<protocols><sip><lines> セクションの各 <line> タグの下に <group-call-pickup> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <group-call-pickup-notifications
enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
```

```

    <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
    <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
  </group-call-pickup-notifications>
  ...
<protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
  ...
</protocols>

```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE\_CLID\_INCOMING\_CALLS\_APPEND\_NUMBER\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_MISSED\_CALLS\_APPEND\_NUMBER\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_OUTGOING\_CALLS\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_OUTGOING\_CALLS\_ADDITIONAL\_NUMBERS\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_OUTGOING\_CALLS\_CALL\_CENTER\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_OUTGOING\_CALLS\_HUNT\_GROUP\_WXT%
- %ENABLE\_CLID\_OUTGOING\_CALLS\_DELIVERY\_BLOCKING\_WXT%
- %ENABLE\_CALL\_FORWARDING\_INFO\_CALLS\_WXT%
- %ENABLE\_GCP\_NOTIFICATIONS\_WXT%
- %ENABLE\_GCP\_DISPLAY\_CALLER\_WXT%
- %GCP\_NOTIFICATION\_MAX\_TIMEOUT\_VALUE\_WXT%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%

次の %TAG% は廃止されました:

- %ENABLE\_NOISE\_REMOVAL\_WXT%

## 2.7 リリース 44.1 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

## 2.8 リリース 43.12 の設定ファイルの変更

- <config><protocols><sip><lines>の<line>セクションごとに<domain>タグを追加しました。

```
<config>
```

```
<protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <domain>%BWHOST-1%</domain>
      ...
    </line>
    <line>
      <domain>%BWHOST-2%</domain>
      ...
    </line>
  ...
</protocols>
```

- [デスクトップのみ] セクション <config><services><calls> の下に <move-here> タグが付いた <call-move> セクションを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <call-move>
    <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><calls> の下に <speech-enhancements> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

- [モバイルのみ] セクション <config><services><dialing><native> の下に <fac-prefix> タグを追加しました。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
    <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
```

- タグ <config><services><calls><transfer-call> に自動保留属性を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
```

- <config><protocols><sip> の下に <rtcp-xr> セクションを追加しました。

```
<config>
<protocols><sip>
  <rtcp-xr>
    <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %BWHOST-n%
- %ENABLE\_CALL\_MOVE\_HERE\_WXT%



- %ENABLE\_SPEECH\_ENHANCEMENTS\_WXT%
- %DIALING\_NATIVE\_FAC\_PREFIX\_WXT%
- %ENABLE\_TRANSFER\_AUTO\_HOLD\_WXT%
- %ENABLE\_RTCP\_XR\_NEGOTIATION\_WXT%

## 2.9 リリース 43.11 の設定ファイルの変更

- セクション <config><protocols><sip> の下で、<registration-cleanup> をサブタグとする新しい <register-failover> セクションを追加しました。<q-value> タグは <register-failover> タグの下に移動されました。

```
<config>
<protocols><sip>
  <q-value>1.0</q-value> <!--DEPRECATED ->
  <register-failover>
    <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-
cleanup>
    <q-value>1.0</q-value>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %SIP\_REGISTER\_FAILOVER\_REGISTRATION\_CLEANUP\_WXT%

## 2.10 リリース 43.10 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

## 2.11 リリース 43.9 の設定ファイルの変更

- <config><services><calls> セクションの <multiple-calls-per-user> というタグを <simultaneous-calls-with-same-user> に改名しました。

```
<config>
<services><calls>
<simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><calls> の下に新しいタグ <remote-mute-control> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><voice-mail> の下に新しいタグ <forwarding> を追加しました。

```
<config>
<services><voice-mail>
<forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

次の%TAG%が更新されました:

- %ENABLE\_MULTIPLE\_CALLS\_PER\_USER\_WXT% was renamed to %ENABLE\_SIMULTANEOUS\_CALLS\_WITH\_SAME\_USER\_WXT%

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE\_REMOTE\_MUTE\_CONTROL\_WXT%
- %ENABLE\_VOICE\_MAIL\_FORWARDING\_WXT%

## 2.12 リリース 43.8 の設定ファイルの変更

- <config><services><calls> セクションに新しいタグ <multiple-calls-per-user> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<multiple-calls-per-user enabled="%ENABLE_MULTIPLE_CALLS_PER_USER_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE\_MULTIPLE\_CALLS\_PER\_USER\_WXT%

## 2.13 リリース 43.7 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

## 2.14 リリース 43.6 の設定ファイルの変更

- [モバイルのみ] セクション <config><services><calls> の下にあるタグ <hold>、<transfer-call>、および <escalate-to-webex-meeting> で新しい属性ウィジェットが有効に追加されました

```
<config>
<services><calls>
  <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%"
type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
  <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE\_WIDGET\_HOLD\_CALLS\_WXT%
- %ENABLE\_WIDGET\_TRANSFER\_CALLS\_WXT%

- %ENABLE\_WIDGET\_CALLS\_ESCALATE\_TO\_WEBEX\_MEETING\_WXT%

## 2.15 リリース 43.5 の設定ファイルの変更

- [Webex Calling のみ] <config><services><calls> セクションに <call-block> タグを追加しました

```
<config>
<services><calls>
  <call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE\_CALL\_BLOCK\_WXT%

## 2.16 リリース 43.4 の設定ファイルの変更

- [Webex Calling のみ]
  - <line> タグごとに *lineType* 属性が追加されました。また、各 <line> タグの下に <external-id> タグを追加しました。

```
<config><protocols>
<sip>
  <lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
    ...
    <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
      <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
    ...
  </line>
  <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
    <external-id>%BWUSEREXTID-2%</external-id>
    ...
  </line>
  ...
  <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
    <external-id>%BWUSEREXTID-10%</external-id>
    ...
  </line>
```

- <services><calls><audio> の下の <audio-quality-enhancements> セクションと <services><calls><video> の下の <video-quality-enhancements> セクションを追加しました

```
<config>
<services><calls>
<calls>
  <audio>
    <audio-quality-enhancements>
      <mari>
        <fec enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
          <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
          <payload>111</payload>
          <max_esel>1400</max_esel>
          <max_n>255</max_n>
          <m>8</m>
          <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
          <non_seq>1</non_seq>
```

```

        <feedback>0</feedback>
        <order>FEC_SRTP</order>
    </fec>
    <rtx enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
        <mari-rtx>90000</mari-rtx>
        <payload>112</payload>
        <time>180</time>
        <data-flow>1</data-flow>
        <order>RTX_SRTP</order>
    </rtx>
</mari>
</audio-quality-enhancements>
...
<video>
    <video-quality-enhancements>
        <mari>
            <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
                <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                <payload>111</payload>
                <max_esel>1400</max_esel>
                <max_n>255</max_n>
                <m>8</m>
                <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                <non_seq>1</non_seq>
                <feedback>0</feedback>
                <order>FEC_SRTP</order>
            </fec>
            <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
                <mari-rtx>90000</mari-rtx>
                <payload>112</payload>
                <time>180</time>
                <data-flow>1</data-flow>
                <order>RTX_SRTP</order>
            </rtx>
        </mari>
    </video-quality-enhancements>

```

- [デスクトップのみ] <protocols><sip> で対応する <line> セクションで、最初の回線ラベル名のハードコードされた値を削除しました。

```

<config>
<protocols><sip>
<line multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
...
    <line>
        <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
    ...

```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE\_AUDIO\_MARI\_FEC\_WXT%
- %ENABLE\_AUDIO\_MARI\_RTX\_WXT%
- %ENABLE\_VIDEO\_MARI\_FEC\_WXT%
- %ENABLE\_VIDEO\_MARI\_RTX\_WXT%

次のシステムレベル%TAG%sが追加されました:

- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%

## 2.17 リリース 43.3 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

## 2.18 リリース 43.2 の設定ファイルの変更

セクション <services><calls> の下に <device-owner-restriction> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<device-owner-restriction
enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%" />
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE\_DEVICE\_OWNER\_RESTRICTION\_WXT%

## 2.19 リリース 43.1 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

### 3 紹介

---

このドキュメントでは、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定について説明します。

設定ファイル「config-wxt.xml」は、モバイル用 (Android および iOS) とデスクトップ用 (Windows および MacOS) の 2 つのバージョンで提供されています。

このクライアントは、エンド ユーザーには表示されない構成を使用して設定されます。 *config-wxt.xml* は、サーバ固有の情報 (サーバのアドレス、ポート、クライアント自体のランタイムオプションなど) を提供します (たとえば、[設定] 画面で表示されるオプション)。

設定ファイルは、デバイス管理から取得された後、起動時にクライアントによって読み取られます。設定ファイルの情報は暗号化されて保存されるため、エンド ユーザーが情報を表示したりアクセスしたりすることはできません。

**メモ:** XML プロパティにはスペースを含めないでください (たとえば、`<TRANSFER-CALL ENABLED = "%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"/>` の代わりに `<transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"/>`)。

## 4 のインストール

---

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは以下からインストールできます。

<https://www.webex.com/webexfromserviceproviders-downloads.html>

### 4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントのローカライズされたバージョンは、次のようにダウンロードできます。

<https://www.webex.com/ko/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/fr/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/pt/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/zh-tw/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/zh-cn/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/ja/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/es/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/de/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/it/webexfromserviceproviders-downloads.html>

### 4.2 Android クライアント

Androidクライアントはアプリケーション(Androidアプリケーションパッケージ[APK])としてインストールされ、設定および構成関連のデータをプライベートエリア内に保持します。

Google Playの手順に基づくバージョン管理があります。標準のGoogle Play通知が提供されます(つまり、Androidは自動的に新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを示します)。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保持されます。

インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

### 4.3 iOS クライアント

iOSクライアントはアプリケーションとしてインストールされ、設定関連のデータは「サンドボックス」内に保存され、設定ファイルのデータは暗号化されます。

Apple App Storeの手順に基づくバージョン管理があります。App Store アイコンが強調表示され、新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを示します。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保持されます。

インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

#### 4.4 デスクトップクライアント

デスクトップクライアント (Windows および MacOS) のインストールとバージョン管理に関する情報は、次のとおりです。 <https://help.webex.com/en-us/nw5p67g/Webex-Installation-and-Automatic-Upgrade>。



## 5 デバイス管理

### 5.1 デバイス管理タグ

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次の図に示されているデバイス管理タグセットを使用します。特定のデバイス/クライアント設定をプロビジョニングするには、システムデフォルトおよびカスタムタグセットが必要です。このタグセットは、クライアントのネットワーク/サービスの接続設定と機能のアクティベーションコントロールを柔軟に管理できます。

このカスタムタグセットは、システム管理者が [システム] → [リソース] → [デバイス管理タグセット] オプションを使用してプロビジョニングします。管理者は新しいタグセットを追加する必要があります。

- モバイル: Connect\_タグ
- タブレット: ConnectTablet\_タグ
- デスクトップ: BroadTouch\_タグ

個々のタグを作成し、その値を設定します。セクションの参照は、各タグの詳細な説明を提供します。カスタムタグは、機能に基づいてグループで区切られ、このドキュメントで後ほど説明します。

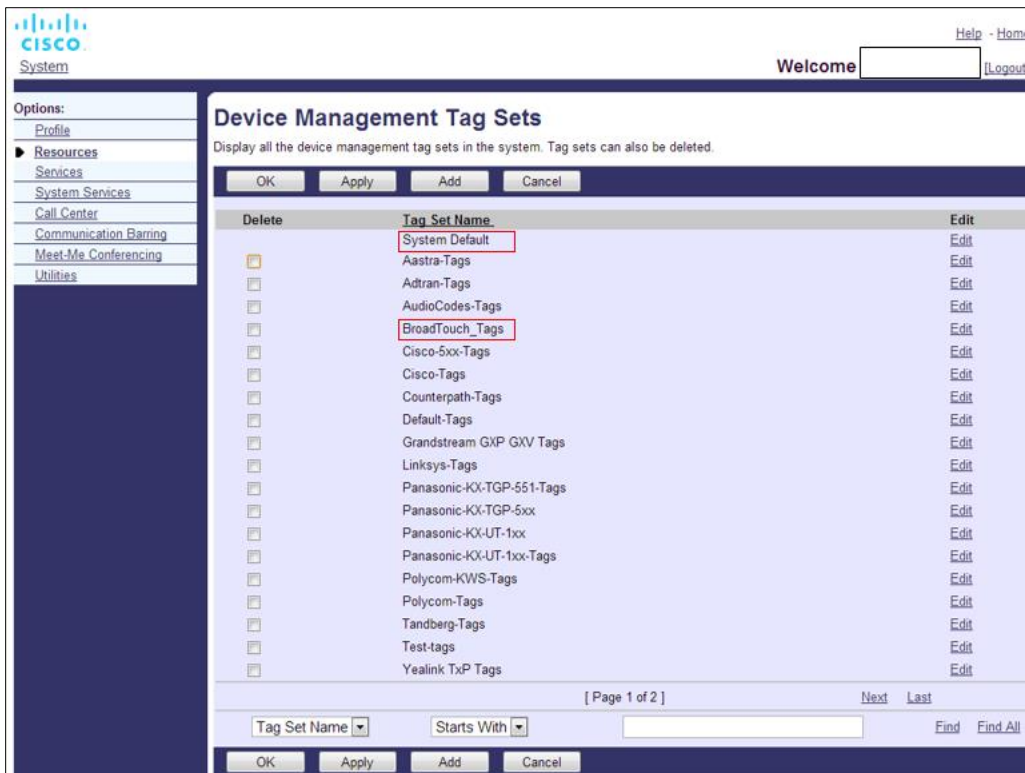


図1 デスクトップデバイス管理タグセット

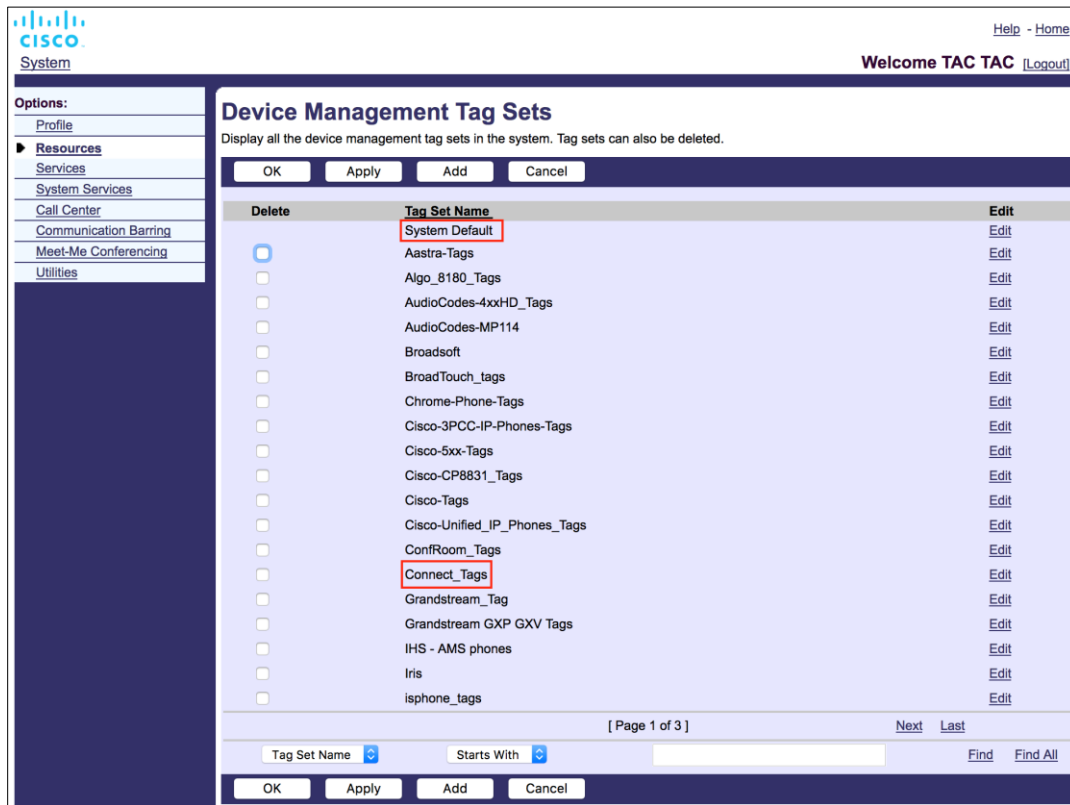


図2 モバイルデバイス管理タグセット

## 5.2 デバイス タイプ選択の部分一致の強化

ユーザーグループまたは個々のユーザーの機能パッケージを選択する際の柔軟性を高めるために、デバイスプロファイルタイプは（最初の）部分一致に基づいて選択されます。これにより、顧客は異なるデバイスタイプを使用できます。

一般的なデバイス管理手順では、Cisco BroadWorks アプリケーション サーバがデバイスプロファイルタイプを提供することを指定します。デスクトップは「Business Communicator – PC」、モバイルは「Connect – Mobile」、タブレットは「Connect – Tablet」という名称です。デバイスプロファイルを作成し、ユーザに割り当てることができます。その後、アプリケーションサーバは構成ファイルを構築し、プロファイルサーバに保存します。

ログイン時に、クライアントは Xsi 経由で割り当てられたデバイスリストをクエリし、対応するデバイスタイププロファイルを検索します。クライアントは、対応するデバイスタイプ名で始まる最初のプロファイルを選択します。次に、このデバイスプロファイルに関連付けられているデバイスプロファイルの設定データ（設定ファイル）を使用して、さまざまな機能を有効または無効にします。

これにより、同じクライアント実行ファイルをさまざまなデバイスプロファイルタイプで使用できるため、サービスプロバイダーは、ユーザ、またはユーザグループの DM でデバイスプロファイルタイプを変更するだけで、個々のユーザ、またはユーザグループの機能パッケージを変更できます。

たとえば、サービスプロバイダーは、「Business Communicator – PC Basic」、「Business Communicator – PC Executive」、または「Business Communicator – PC Assistant」など、ユーザロールに基づいてさまざまなデバイスプロファイルタイプを持ち、個々のユーザが利用できる機能を変更できます。

受信したデバイスリスト XML に複数の一致するデバイスプロファイルタイプは含まれませんが、1つだけであることが期待されます。

### 5.3 クライアントの設定

クライアントの Webex for Cisco BroadWorks バージョンは、通話機能の設定に `config-wxt.xml` ファイルを使用します。Webex には、このドキュメントには含まれていない別の設定手順があります。

### 5.4 config-wxt.xml の展開

該当する `config-wxt.xml` ファイルを「Connect – Mobile」、「Connect – Tablet」、および「Business Communicator – PC」デバイスプロファイルに追加します。Cisco BroadWorks 版 Webex は、UC-One と同じデバイスプロファイルを使用して、展開を容易にします。

**メモ1:** 各デバイスプロファイルに設定ファイルが存在する必要があります。

**メモ2:** 最新版の Webex アプリでテンプレートを最新の状態に保つことを推奨します

### 5.5 設定ファイル (config-wxt.xml)

**\_WXT** サフィックスを備えた新しいカスタムタグは、Cisco BroadWorks 用の新しい Webex 構成展開をレガシークライアントと区別するために使用されます。ただし、UC-One と Webex の間で共有されるいくつかの (システム) タグはまだあります。

Cisco BroadWorks システム カスタム タグの一部は、`config-wxt.xml` 構成ファイルでも使用されます。以下の各タグの詳細については、セクション [5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステムタグ](#) を参照してください。

- %BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
- %BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
- %BWLINPORT-n%
- %BWAUTHUSER-n%

- %BWAUTHPASSWORD-n%
- %BWE164-n%
- %BWHOST-n%
- %BWNAME-n%
- %BWEXTENSION-n%
- %BWAPPEARANCE-LABEL-n%
- %BWDISPLAYNAMELINEPORT%
- %BWLINEPORT-PRIMARY%
- %BWE911-PRIMARY-HELDURL%
- %BWE911-CUSTOMERID%
- %BWE911-SECRETKEY%
- %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%" (Webex Calling のみ)

## 5.6 システム デフォルト タグ

システム管理者は、[システム] → [リソース] → [デバイス管理タグ設定] オプションを使用して、システムのデフォルトタグにアクセスできます。VoIP Calling パッケージがインストールされている場合は、次のシステム デフォルト タグをプロビジョニングする必要があります。

タグ	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	これは、ネットワークに展開されているセッション ボーダー コントローラ (SBC) の完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスとして設定する必要があります。 例: sbc.yourdomain.com をご覧ください。
%SBC_PORT_WXT%	SBC_ADDRESS_WXT が IP アドレスの場合、このパラメータを SBC ポートに設定する必要があります。 SBC_ADDRESS_WXT が FQDN の場合、設定せずに残すことができます。 例: 1775年の戦闘

## 5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ

デフォルトのシステム タグと定義する必要があるカスタム タグに加えて、通常使用され、推奨されるデバイス タイプ アーカイブ ファイル (DTAF) の一部である既存の Cisco BroadWorks システム タグがあります。これらのタグはこのセクションにリストされています。インストールされているソリューションパッケージによっては、すべてのシステムタグが使用されるわけではありません。

タグ	説明
%BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%	これは N-Way 会議を有効にするために使用されるサーバー URI です。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%	この番号はボイスメールに使用されます。ボイスメールを取得するときに、クライアントがこの番号をダイヤルします。
%BWLINPORT-n%	登録などで、SIP シグナリングに使用される SIP ユーザー名。
%BWHOST-n%	これは、ユーザに割り当てられたデバイスのプロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分です。ユーザーのプロファイルから取得されます。 通常は SIP ドメインとして使用されます。
%BWAUTHUSER-n%	これは認証ユーザー名です。サブスクリバに認証が割り当てられている場合は、デバイス タイプの選択した認証モードに関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたユーザー ID です。 SIP ユーザー名は、通常 401 および 407 シグナリングで使用されます。デフォルトの SIP ユーザー名とは異なる場合があります。
%BWAUTHPASSWORD-n%	これはユーザーの認証パスワードです。サブスクリバに認証が割り当てられている場合、これはデバイス タイプの選択した認証モードの値に関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたパスワードです。 SIP シグナリングで使用される SIP パスワード。
%BWE164-n%	このタグは、国際形式でユーザーの電話番号を提供します。
%BWNAME-n%	これは、ユーザーのプロファイル内のサブスクリバの名と姓です。姓と名は一緒に連結されます。 複数回線設定の場合、回線ラベルが設定されておらず、空でない場合は、回線セレクトタの回線の表示名として使用されます。

タグ	説明
%BWEXTENSION-n%	サブスクリバの拡張機能は、ユーザのプロファイルでプロビジョニングされた拡張機能から取得されます。内線がプロビジョニングされていない場合、タグはサブスクリバの電話番号（DN）に置き換えられます。
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%	これは、設定された回線ラベルです。行名として使用します（空でない場合）。
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%	これは、共有回線（共有コール アピランス）とは対照的に、最初のプライベート回線の回線/ポートです。  これは、ユーザに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされた回線ポートです。これはユーザーのプロファイルから取得されます。  ユーザーのプライマリ回線を識別するために使用。
%BWLINEPORT-PRIMARY%	プライマリ回線ポートは、ユーザに割り当てられているデバイスでプロビジョニングされます。このタグには、プロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分は含まれません。ユーザーのプロファイルから取得されます。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	HELD プロトコルをサポートする RedSky 緊急ロケーションプラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	RedSky HTTPS リクエストに使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	RedSky HTTPS 要求を認証する秘密。

タグ	説明
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	<p>RedSky でサポートされている緊急番号のリスト。</p> <p>このタグを使用するには、デバイス タイプで使用されるタグセットに %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% 予約済みカスタム タグを追加する必要があります。「予約済み」タグには、AS_CLI/System/CallP/CallTypes &gt; の BroadWorks で定義された緊急番号を、911、0911、933 などのカンマ区切り形式で含める必要があります。</p> <p>メモ: Webex クライアントは緊急番号でワイルドカードをサポートしていません。そのため、「予約済み」カスタム タグには正確な緊急番号のみを追加する必要があります。</p> <p>次の例は、予約済みタグ機能の使用方法を示しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ネイティブ タグ %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% がデバイスのテンプレート ファイルに追加されました</li> <li>2) 予約済みカスタムタグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% が、デバイスで使用されているタグに 911、0911、933 の値が追加されます。</li> <li>3) ファイルがリビルドされると、%RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% ネイティブタグが 911、0911、933 に解決されます。</li> </ol>
%BW-MEMBERTYPE-n%	これは各行のタイプです。それは「仮想プロファイル」、「ユーザー」、または「場所」の1つになることができます。
%BWUSEREXTID-n%	これは指定された回線の外部 ID です (Webex Calling のみ)
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%"	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します。(Webex Calling のみ)

## 6 カスタムタグ

このセクションでは、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグについて説明します。デスクトッププラットフォームとモバイル/タブレットプラットフォームの両方で使用されるすべてのカスタムタグが一覧表示されます。

ただし、このセクションで説明されている一部の設定は、クライアントの特定のリリースでのみサポートされています。設定が古いクライアントバージョンに適用されないかどうかを判断するには、適切なリリース固有の設定ガイドを参照してください。

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	はい	はい	true	<a href="#">6.1.16 着信通話拒否の動作</a>
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	いいえ	はい	辞退する	<a href="#">6.3.2 コールのプッシュ通知</a>
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	いいえ	はい	取り込み中	<a href="#">6.3.2 コールのプッシュ通知</a>
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.20 転送</a>
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.21 N-way 会議コールと参加者</a>
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.21 N-way 会議コールと参加者</a>
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	はい	はい	10	<a href="#">6.1.21 N-way 会議コールと参加者</a>
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.24 通話の統計</a>
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.22 コールプル</a>
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.3.2 コールのプッシュ通知</a>
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし</a>



タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_MWI_WXT%	はい	はい	false	6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ
%MWI_MODE_WXT%	はい	はい	空	6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	はい	はい	false	6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	はい	はい	false	6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.1 強制ログアウト
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	はい	いいえ	空	6.2.1 強制ログアウト
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	はい	はい	false	6.1.29.1 通話転送常時
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	はい	はい	false	6.1.29.3 BroadWorks Anywhere
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	はい	はい	true	6.1.29.3 BroadWorks Anywhere
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	はい	はい	false	6.1.29.3 BroadWorks Anywhere
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	6.1.29.3 BroadWorks Anywhere
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	はい	はい	false	6.1.29.3 BroadWorks Anywhere

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.29.3 BroadWorks Anywhere</a>
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.29.3 BroadWorks Anywhere</a>
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.29.3 BroadWorks Anywhere</a>
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.29.3 BroadWorks Anywhere</a>
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.29.3 BroadWorks Anywhere</a>
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.3.1 緊急コール</a>
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	いいえ	はい	911、112	<a href="#">6.3.1 緊急コール</a>
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.14 NAT トラバーサル の SIP rport 管理</a>
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.14 NAT トラバーサル の SIP rport 管理</a>
%USE_TLS_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイム トランスポート プロトコル</a>
%SBC_ADDRESS_WXT%	はい	はい	空	<a href="#">5.6 システム デフォルト タグ</a>
%SBC_PORT_WXT%	はい	はい	カワサキ・S60	<a href="#">5.6 システム デフォルト タグ</a>
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.6 動的 SIP プロキシ検出</a>

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	はい	はい	空	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	はい	はい	true	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	はい	はい	true	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	Y (Windows のみ)	いいえ	false	6.1.6 動的 SIP プロキシ検出
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	5,000	6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	10000	6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト
%SOURCE_PORT_WXT%	はい	はい	カワサキ・S60	6.1.7 SIP の優先ポート使用状況
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	はい	いいえ	true	6.1.8.2 SIP フェイルバック
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	はい	いいえ	900	6.1.8.2 SIP フェイルバック
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	6.1.8.2 SIP フェイルバック
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	はい	はい	dnsアドレス	6.1.8.3です。IP バージョンを強制する

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	はい	はい	false	6.1.10 REGISTER で P-Associated-URI を使用する
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	はい	はい	18000	6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	はい	いいえ	false	6.1.8.4 DNS TTL の管理
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	はい	はい	false	6.1.12 SIP UPDATE サポート
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	はい	はい	false	6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	はい	はい	false	6.1.15 SIP セッション ID
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	はい	はい	false	6.1.13 レガシー SIP INFO FIR
%SRTP_ENABLED_WXT%	はい	はい	false	6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイム トランスポート プロトコル
%SRTP_MODE_WXT%	はい	はい	false	6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイム トランスポート プロトコル
%ENABLE_REKEYING_WXT%	はい	はい	true	6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイム トランスポート プロトコル
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8000	6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8099	6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8100	6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8199	6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	はい	はい	true	6.1.19 RTCPのMUX
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	はい	はい	true	6.1.33 XSI イベント チャンネル
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	はい	はい	10000	6.1.33 XSI イベント チャンネル
%XSI_ROOT_WXT%	はい	はい	空 (元の URL を使用)	6.1.32 XSI ルートとパス
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/	6.1.32 XSI ルートとパス

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/	<a href="#">6.1.32 XSI ルートとパス</a>
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.25 コール自動回復</a> <a href="#">/シームレスなコールハンドオーバー</a>
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	いいえ	はい	cs のみ	<a href="#">6.3.1 緊急コール</a>
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	はい	いいえ	false	<a href="#">6.2.2 コールピックアップ</a>
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	はい	いいえ	false	<a href="#">6.2.2 コールピックアップ</a>

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	はい	はい	false	6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	はい	はい	外部	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNRE_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定
%USE_MEDIASEC_WXT%	はい	はい	false	6.1.3 SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	いいえ	はい	false	6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	いいえ	はい	10	6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.3 Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	いいえ	はい	35	6.3.2 コールのプッシュ通知
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	はい	はい	false	6.1.26 通話の録音
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	いいえ	はい	false	6.3.3 単一のアラート



タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	はい	はい	false	6.1.23 コールパーク/保留解除
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	はい	はい	10	6.1.23 コールパーク/保留解除
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	はい	はい	false	6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)
%RTP_ICE_MODE_WXT%	はい	はい	lcestunさん	6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	はい	はい	空	6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)
%RTP_ICE_PORT_WXT%	はい	はい	3478	6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	はい	はい	false	6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	6.1.8.4 DNS TTL の管理
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.4 SIP 通話をミーティング
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTOMATICALLY_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.5 卓上電話制御通話 - 自動応答
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	いいえ	はい	true	6.3.5 MNO サポート ネイティブダイヤラーとの通話
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	いいえ	はい	false	6.3.5 MNO サポート ネイティブダイヤラーとの通話
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	はい	はい	true	6.1.35 SIP-URI ダイヤリング

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	6.1.37 ビデオ通話を無効にする
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	6.1.37 ビデオ通話を無効にする
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	はい	はい	デスクトップ - true モバイル、タブレット - false	6.1.37 ビデオ通話を無効にする
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	はい	はい	false	6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	0	6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	はい	はい	-1	6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	はい	はい	一度ロケインする	6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.6 トーン通知による自動応答
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	はい	はい	false	6.1.41 スпам通話の表示
%ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT%	はい	はい	false	6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	はい	はい	false	6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	はい	はい	false	6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	はい	はい	false	6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	はい	はい	false	6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	はい	はい	false	6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ)
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	はい	true	6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	はい	はい	false	6.1.47 同じユーザーとの同時通話
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.14 リモート ミュート制御イベント パッケージ (Webex Calling のみ)
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	はい	はい	true	6.1.29.2 ボイスメールへのコール転送
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	はい	はい	true	6.1.8.1 SIP フェールオーバー
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.15 通話を移動
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	はい	はい	false	6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	いいえ	はい	空	<a href="#">6.3.5.1 ネイティブダイヤラーとの通話</a>
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.20 転送</a>
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	はい	はい	true	<a href="#">6.1.48 RTCP-XRについて</a>
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.3.6 着信発信者 ID</a>
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.3.6 着信発信者 ID</a>
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.1.50 発信者番号</a> <a href="#">発信者 ID (Webex Calling のみ)</a>
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.1.50 発信者番号</a> <a href="#">発信者 ID (Webex Calling のみ)</a>
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.1.50 発信者番号</a> <a href="#">発信者 ID (Webex Calling のみ)</a>
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.1.50 発信者番号</a> <a href="#">発信者 ID (Webex Calling のみ)</a>
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	いいえ	はい	false	<a href="#">6.1.50 発信者番号</a> <a href="#">発信者 ID (Webex Calling のみ)</a>
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	はい	はい	false	<a href="#">6.1.49 コール転送情報</a>
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	はい	いいえ	false	<a href="#">6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド</a>

タグ	デスクトップで使用される	モバイル/タブレットで使用される	既定値	セクション
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WX T%	はい	いいえ	true	6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_ WXT%	はい	いいえ	0	6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WX T%	はい	いいえ	false	6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_W XT%	はい	いいえ	false	6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_ VALUE_WXT%	はい	いいえ	120	6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	はい	true	6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	はい	false	6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	はい	false	6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制
%ENABLE_MULTILINE_WXT%	はい	いいえ	false	6.2.12 マルチライン - 共有ライン アピアランス
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WE BEX_MEETING_WX T%	いいえ	はい	false	6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーショ ンする (Webex Calling)
%ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKIN G_WXT%	いいえ	はい	false	6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) - デュアル ペルソナ
%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANA GEMENT_WXT%	いいえ	はい	false	6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID)
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MO DE_WXT%	はい	はい	解決済 み	6.1.50.2 リモート発信者 ID 名

Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグを UC-One で使用されるタグにマッピングする方法の詳細については、セクション [8Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング](#) を参照してください。

## 6.1 一般的な機能

### 6.1.1 SIP サーバーの設定

クライアントは通常、`config-wxt.xml` ファイルを修正して SIP ネットワークを使用するように設定されます。通常、次のパラメータを変更する必要があります。

- **SIP ドメイン。** これは、SIP ヘッダーおよびリモート (XSI) コールで一般に、独自の SIP URI のドメイン部分として使用されます (独自の SIP URI は回線ポートとも呼ばれます)。独自の SIP URI のユーザ部分は、SIP クレデンシャル設定 (<credentials> の下のパラメータ <username>) から取得します。
- **DNS 解決に失敗した場合、SIP プロキシ サーバの SIP サーバ URI または IP アドレス。** TLS を使用するには、TLS 証明書の検証が失敗するため、プロキシ パラメータで IP アドレスを使用できません。プロキシ ポートの詳細については、DM タグ `%SOURCE_PORT_WXT%` を参照してください。プロキシ アドレス パラメータで IP アドレスを使用する場合、DNS TTL 管理機能を使用できないことに注意してください。一般的に、これらの理由から、このフィールドに IP アドレスを使用することはお勧めできません。

その他のパラメータを変更して、通話のさまざまな機能を有効にすることもできます。ただし、以前の設定では、次の基本的な機能を有効にします。

- SIP ネットワークに登録します。
- 音声またはビデオ通話を発信する。
- 複数のプロキシを使用できる DNS ベースのプロキシ検出を実行します。

SIP 登録が有効になると、MWI の SIP SUBSCRIBE を有効にするには、別の設定パラメータを使用して行う必要があります。ボイスメールの詳細については、[セクション 6.1.27 ボイスメール](#)、[ビジュアルボイスメール](#)、[メッセージ待機インジケータ](#) を参照してください。

SIP コールが無効になっている場合でも、MWI では基本的な SIP 設定が常に必要であることに注意してください。MWI は SIP NOTIFY に依存します。

SIP サーバのセットアップは、次の基本スキームに従います。

- プロキシ アドレスには SIP サーバ URI が含まれます。
- 定義できるプロキシは 1 つのみです。
- DNS プロキシ検出は、DNS の適切なセットアップを必要とする多くのプロキシをサポートします。

さらに、SIP タイマーは設定ファイルで公開されます (変更は推奨されません)。

```
<config>
<protocols>
<sip>
  <timers>
    <T1>500</T1>
    <T2>4000</T2>
```

```
<T4>5000</T4>
</timers>
```

- T1 - ネットワークの往復遅延の時間（ミリ秒）。
- T2 - 非招待要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒）。
- T4 - メッセージがネットワークに残るまでの最大時間（ミリ秒）です。

各回線には、ボイスメール番号、会議 URI、ドメイン、SIP 認証資格情報などの独自のパラメータがあります。必要に応じて、401 シグナリングと 407 シグナリング用に別のクレデンシャルを設定できます。

次の例と表は、SIP 設定に使用される最も典型的な DM タグに関する情報を提供します。

```
<config>
<protocols><sip>
<lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
  <line>
    <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
    <name>%BWNAME-1%</name>
    <phone-number>%BWE164-1%</phone-number>
    <extension>%BWEXTENSION-1%</extension>
    <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
    <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
    <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-1%</conference-service-uri>
    <domain>%BWHOST-1%</domain>
    <credentials>
      <username>%BWLINPORT-1%</username>
      <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
      <auth>
        <auth401>
          <default>
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </default>
          <realm id="%BWHOST-1%">
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </realm>
        </auth401>
        <auth407>
          <default>
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </default>
          <realm id="%BWHOST-1%">
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </realm>
        </auth407>
      </auth>
    </credentials>
  </line>
  ...
</lines>
<proxy address="%SBC_ADDRESS_WXT%" port="%SBC_PORT_WXT%" />
```



```
<preferred-port>%SOURCE_PORT_WXT%</preferred-port>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%BWLINERPORT-n%	空	文字列	通常、SIP ユーザ名。 詳細については、セクション <a href="#">5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ</a> を参照してください。 例: ジョンドー
%BWAUTHPASSWORD-n%	空	文字列	通常、SIP パスワード。 詳細については、セクション <a href="#">5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ</a> を参照してください。 例: 秘密パスワード
%BWE164-n%	空	電話番号	国際形式でのユーザーのデフォルトの電話番号。 詳細については、セクション <a href="#">5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ</a> を参照してください。 例: 12345678
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	詳細については、セクション <a href="#">5.6 システム デフォルト タグ</a> を参照してください。 例: sbexample.domain.com (sbexample.domain.com)
%SBC_PORT_WXT%	カワサキ・S60	番号	詳細については、第 <a href="#">5.6 システム デフォルト タグ</a> 項を参照してください。 例: カワサキ・S60
%BWHOST-n%	空	文字列	通常は SIP ドメインとして使用されます。 詳細については、セクション <a href="#">5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ</a> を参照してください。 例: 「exampledomain.com」

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SOURCE_PORT_WXT %	カワサキ ・S60	番号	通常、 <i>preferred-port</i> パラメータに使用します。 詳細については、 <a href="#">第6.1.7SIPの優先ポート使用状況</a> 項を参照してください。 例: 5061
%BWUSEREXTID-n%	空	文字列	(Webex Callingのみ) 回線の外部IDを保持します 詳細については、 <a href="#">6.2.13マルチライン-仮想回線 (Webex Callingのみ)</a> を参照してください。 例: 30f69bf7-710b-4cd0-ab4b35ab393a1709

**メモ:** モバイル端末で標準 SIP ポート (5060) を使用する際に発生する既知の問題のため、SIP ポートを 5060 以外 (5075 など) にすることが強く推奨されています。

## 6.1.2 SIP Over TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル

クライアントは、メディア暗号化のために TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル (SRTP) を介した SIP シグナリングを使用するように設定できます。ただし、次の例に示すように、これらの機能を設定で有効にする必要があります。また、動的 SIP プロキシ検出を使用する場合、DNS SRV の優先順位はこのような静的パラメータ (%USE\_TLS\_WXT%) を上書きし、DNS SRV で優先順位が高い場合は非 TLS 転送が使用されます。動的 SIP プロキシ検出の詳細については、セクション [6.1.6動的 SIP プロキシ検出](#) を参照してください。

動的プロキシ検出が使用されない場合、SIP の TLS を有効にすると、その検出が使用されます。

ネットワークで SIP ALG が使用されている場合の SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『*Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド*』を参照してください。

使用する証明書は有効である必要があることに注意してください。さらに、中間証明書もリンクされるように、証明書チェーンは無傷でなければなりません。広く使用されている証明書は、既定でデバイス上に存在するように使用することをお勧めします。デスクトップマシンに証明書を手動で追加することも、一括プロビジョニングを使用してローカルに追加することもできますが、これは通常行われません。

メディア暗号化に関連する SRTP を有効にするには、別の設定があります。

RTPに加えて、RTCPトラフィックは、前の設定を使用してRTPと同じメカニズムで保護できます。

SIP/TLS暗号については、[付録A: TLS 暗号を参照してください](#)。

SRTP は、メディア ストリームのセキュリティを 3 つの異なる側面で提供するために使用されます。

- 機密性（データは暗号化されています）
- 認証(相手方または当事者の身元保証)
- 誠実さ(リプレイ攻撃などの対策)

メディアフレームワークの現在のバージョンは、保護用の AES 128 Counter Mode と、認証用の Hash Message Authentication Code (HMAC)-SHA-1 をサポートしています。 マスターキーのサイズは16バイトで、マスターソルトは14バイトです。

メディア フレームワークは、フル（80 ビット）認証タグとショート（32 ビット）認証タグの両方をサポートします。 クライアントは、SIP シグナリングの一部として SDP 内のキーを交換し、コールの両側は使用するキーを反対側に送信します。

SRTP は、次の例に示す設定を使用して有効にできます。 現在の実装では、SDP セキュア RTP プロファイルのみが使用され、Audio Visual Profile (AVP) および Secure Audio Visual Profile (SAVP) エントリ用のマルチライン SDP がサポートされています。 SRTP の実装は、さまざまな SBC を使用した通常の展開設定で正常にテストされています。 AVP プロファイルを使用した暗号化のみをサポートするエンドポイントとの相互運用性テスト (IOT) はサポートされていません。

SRTP に関連するマルチライン SDP 手順を実装し、複数の m ラインを常に使用できるようにします。 AVPとSAVPには別々のm線が使用されます。

ただし、SBC 設定には慎重に考慮する必要があります。特に、SDP の RTP/SAVP に関連付けられている着信「m=」回線が削除されないようにする必要があります。これは、場合によっては SRTP コールがブロックされる可能性があるためです。

しかし、いくつかの異なるネットワーク構成が可能であり、一部の展開ではSBCがメディアトラフィックに関与しない一方、他の展開では、SBCに対する各クライアントRTPメディアレッグは、SBCを介して個別に暗号化およびネゴシエートされます。一部の展開では、SBCは複数のSDP回線を許可しません。

SBC は、コールセットアップ時に SDP m 回線の順序を変更し、AVP（非暗号化）または SAVP（暗号化）m 回線を最初に設定することもできます。したがって、最初の動作する m ラインを選択するクライアントは、暗号化または暗号化されていないトラフィックのいずれかを好むように作られています。さまざまな SRTP 設定オプションは次のとおりです。

- 必須 - コール設定時、最初の SDP には、提供時に SAVP m-line のみが含まれており、応答時に SDP で SAVP m-line のみを受け入れるクライアントがあるため、SRTP コールのみ可能です。
- 優先 - コールセットアップでは、最初の SDP には AVP と SAVP m ラインの両方が含まれますが、SAVP は最初に提供され、優先順位を表示します。応答時に、最初の m 回線ではない場合でも利用可能な場合、クライアントは SAVP を選択します (SIP 仕様に従い、応答時に m 回線の順序は変更されません)。
- オプション - コールセットアップ時、最初の SDP には、提供時に SAVP と AVP の M 行の両方が含まれますが、AVP は最初に優先順位を表示します。応答すると、クライアントは最初の m 回線、AVP または SAVP を選択します。
- SRTP が有効になっていない - 提供する際に、最初の SDP に SAVP m-line がありません。応答時に SAVP は受け入れられないため、RTP コールのみ可能です。
- [転送 (Transport)]: 転送プロトコルに基づいて SRTP モードを自動的に選択します。TLS を使用する場合、必須 SRTP モードが有効になります。TCP または UDP を使用する場合は、SRTP は使用されません。

SRTP と RTP は、コールの両方向で対称です。つまり、プロファイルの送受信は同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<secure>%USE_TLS_WXT%/</secure>
```

```
<config>
<protocols><rtp>
<secure enabled="%SRTP_ENABLED_WXT%" mode="%SRTP_MODE_WXT%" rekey-
always="%ENABLE_REKEYING_WXT%"/>
```

SRTP が有効になっている場合は、Secure Real-Time Control Protocol (SRTCP) も使用されません。

一部の展開では、SRTP の再キーはサポートされていません。したがって、SRTP 再キーを有効または無効にする設定パラメータがあります。ただし、rfc3264 に従って更新された SDP で受信された場合は常に新しいキーが使用されます。コンフィギュラビリティは、新しいキーの送信にのみ適用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_TLS_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP TLSは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP TLSが有効になります。</p> <p><a href="#">6.1.6動的 SIP プロキシ検出</a></p> <p>を使用する場合、このパラメータは無視されることに注意してください。</p>
%SRTP_ENABLED_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SRTPは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SRTPが有効になります。</p>
%SRTP_MODE_WXT%	オプション	必須、推奨、オプション、転送	<p>コール設定での優先 SRTPの方法を定義します。</p> <p>デフォルト値は「オプション」です。</p>
%ENABLE_REKEYING_WXT%	true	true、false	<p>SRTP の SIP (SDP) 再キーを有効にします。</p>

**メモ:** ICE サポートが有効になっている場合 ([6.1.18ICE サポート \(Webex Calling のみ\)](#)を参照)、再キーは常に実行されます (構成からの%ENABLE\_REKEYING\_WXT%の値は無視されます)。

### 6.1.3 SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー

新しい 3GPP 仕様では、セキュア リアルタイム トランスポート プロトコル (SRTP) を使用するには、追加の SIP ヘッダーが必要です。詳細については、[3GPP TS 24.229](#)および以下を参照してください。

<https://tools.ietf.org/html/draft-dawes-dispatch-mediasec-parameter-07>

この仕様で要求されるヘッダーは、この仕様が使用されていない展開で SIP コールを切断する場合があります。したがって、これらのヘッダーは、サーバ側がサポートしている環境でのみ使用することを推奨します。

ヘッダーの使用を有効にすることだけが設定可能です。個々のヘッダーにはこれ以上の設定機能はありません。すべてのヘッダーが有効または無効になっています。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-mediasec enabled="%USE_MEDIASEC_WXT%"/>
```

次のタグがこの機能を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_MEDIASEC_WXT%	false	true、false	SRTP ネゴシエーションの 3GPP SIP ヘッダーを有効にします。

#### 6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、SIP シグナリングと RTP メディアの両方に TCP、TLS、UDP のいずれかを使用するように設定できます。クライアントのデフォルトは TCP であることに注意してください。TCP キープアライブがない場合、SIP TCP 接続は非アクティブ状態の期間が経過した後に閉じられることに注意してください。

次の例では、この設定ノードを示します。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
<tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%/</tcp-size-threshold>
```

次のタグは、クライアントが TCP または UDP を使用するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値 (バイト)	説明
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	0	0	TCP を使用するように強制します。クライアントに TCP または UDP を使用する決定はサービスプロバイダ次第ですが、デフォルト値「0」で TCP を使用することをお勧めします。

	0	1から99,000	メッセージ サイズがここで指定した値より小さい場合に、UDPを強制的に使用します。  メッセージサイズが設定値より大きい場合、デフォルトでTCPになります。UDPを使用するには、1500がデフォルトの推奨です。
	0	100000	UDPを使用するように強制します。

同じ設定ノードには、次の例に示すように、UDP、TCP、および TLS キープアライブのパラメータもあります。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
...
  <udp>
    <keepalive enabled="%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      <timeout>20</timeout>
      <payload>crlf</payload>
    </keepalive>
  </udp>
  <tcp>
    <keepalive enabled="%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      <timeout>0</timeout>
      <payload></payload>
    </keepalive>
  </tcp>
  <tls>
    <keepalive enabled="%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
      <timeout>0</timeout>
      <payload></payload>
    </keepalive>
  </tls>
</transports>
```

可能なパラメータは次のとおりです。

- TCPまたはTLSキープアライブを有効にする、可能な値 - **true/false**、ノードがない場合はデフォルトは「**false**」です。この機能が有効になっている場合、SIPにUDPトランスポートが使用されている場合でも、TCPキープアライブが送信されることに注意してください。
- UDPキープアライブを有効にする、可能な値 - **true/false**、ノードが見つからない場合、デフォルトは「**true**」です。この機能が有効になっている場合、SIPにTCPトランスポートが使用されている場合でも、UDPキープアライブが送信されることに注意してください。さらに、SIPにTCPが使用されている場合でも、クライアントはRFC 3261に従ってUDP経由のトラフィックも受け入れます。

- タイムアウトは、キープアライブメッセージが送信された後の非アクティブ状態の最大時間を秒単位で指定します。値がないということは、プロトコルで **keepalive** が無効になっていることを意味します。
- **keepalive** メッセージのペイロード、可能な値（値がないということは、プロトコルで **keepalive** が無効になっていることを意味します）：
  - Crif（クレフ）
  - Null（使用しない）
  - カスタム文字列（**使用不可**）

キーパリーブは、NATトラバーサルのために使用して、NATバインディングをわずかな余分なトラフィックで開いたままにすることができます。

キーパリーブのサーバの IP アドレスとポートは、SIP プロキシ検出の通常の手順を使用して決定されます。SIP ポートと SIP 動的プロキシ検出を介して取得したトランスポートプロトコルの選択は、静的ポートまたはトランスポート設定を上書きすることに注意してください。動的プロキシ検出の詳細については、セクション [6.1.6動的 SIP プロキシ検出を参照してください](#)。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%UDP_KEEPALIVE_ENAB LED_WXT%	true	true、false	UDP トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TCP_KEEPALIVE_ENAB LED_WXT%	false	true、false	TCP トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TLS_KEEPALIVE_ENAB LED_WXT%	false	true、false	TLS トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。

### 6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト

以前は、SIP ソケットを開くタイムアウトは TCP では 5 秒、TLS では 10 秒にハードコードされていました。これらのタイムアウトは設定可能になりました。

```
<config>
  <protocols>
    <sip>
      <transports>
        <udp>
```



```

...
</udp>
<tcp>
...
<connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
</tcp>
<tls>
<connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
</tcp>
</transports>

```

次のタグは、ソケット接続タイムアウト（ミリ秒）を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	5,000	<integer> - ミリ秒単位のタイムアウト	TCP トランスポートが使用されたときのソケット接続タイムアウト。
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	10000	<integer> - ミリ秒単位のタイムアウト	TLS トランスポートが使用されたときのソケット接続タイムアウト。

### 6.1.6 動的 SIP プロキシ検出

SIP 動的プロキシ検出機能を有効にするには、次の例を参照してください。

```

<config>
<protocols><sip>
<proxy-discovery enabled="%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%"
tcp="%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%" udp="%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%"
tls="%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%">
  <record-name>%SBC_ADDRESS_WXT%</record-name>
  <domain-override>%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%</domain-override>
</proxy-discovery>

```

DNS SRV からのトランスポートプロトコルエントリは、このセクションで提供される手順に従って多くが利用可能な場合にどのエントリが使用されるかを制御できます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ コールの動的 SIP プロキシ検出を有効にします。 推奨値は「true」です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	この Cisco BroadWorks タグは通常、レコード名パラメータに使用されます。有効な URL である必要があります。IP アドレスであるべきではありません。 詳細については、第5.6システム デフォルト タグ 項を参照してください。 例: sbc.domain.com (sbc.domain.com)
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	空	文字列	このカスタムタグは、ドメインオーバーライドに使用されます。 詳細については、次のセクションを参照してください。 例: その他.domain.com
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が [false] の場合、このトランスポートプロトコル (TCP) の DNS SRV 結果は破棄されます。 [true] の場合、このトランスポートプロトコル (TCP) の DNS SRV の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が [false] の場合、このトランスポートプロトコル (UDP) の DNS SRV 結果は破棄されます。 [true] の場合、このトランスポートプロトコル (UDP) の DNS SRV の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が [false] の場合、このトランスポートプロトコル (TLS) の DNS SRV 結果は破棄されます。 [true] の場合、このトランスポートプロトコル (TLS) の DNS の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	true、false	true	DNS バックアップサービスを有効または無効にします。有効にすると、SIP プロキシアドレスに対して A/AAAA 解決が実行されます。SRV/NAPTR サービス検出が有効になっている場合にのみ考慮されます。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	true、false	true	「true」に設定し、NAPTR サービスディスカバリが失敗するか、結果を返さない場合、設定されたホストに対して SRV サービスディスカバリが実行されます。「false」に設定すると、SRV 検出は実行されません。
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	true、false	false	OS DNS キャッシュのバイパスを可能にします。

DNS を使用すると、クライアントは RFC 3263 に従って SIP プロキシの IP アドレス、ポート、およびトランスポートプロトコルを取得できます。

DNS SRV、Naming Authority Pointer (NAPTR)、および A レコードクエリがサポートされています。ログイン時、3ステップのフローは次のとおりです。

1. 上記の <record-

*name*>フィールドを使用して NAPTR クエリを実行し、トランスポートプロトコルを含むサーバ URI を取得します。 <record-

*name*>パラメータの値は、DNS が解決する完全なドメインである必要があり、IP アドレスにすることはできません。

2. SRV クエリを使用して NAPTR クエリで見つかった項目を解決し、最終的なサーバ URI とポートを取得します。SRV クエリで使用されるドメイン部分は、NAPTR クエリの結果から取得され、最終的なサーバ URI (およびポート) を検索します。DNS SRV クエリから受信したポートは、DNS SRV エントリが利用可能な場合に使用されます。ポートは、設定ファイルからのみ設定ファイルのスタティック プロキシに適用され、SRV を使用して解決された URI には適用されないことに注意してください。さまざまなレコード名の使用方法については、次の例を参照してください。

NAPTR が見つからない場合、クライアントは<domain> パラメータから取得したレコード名で SRV クエリを試します。ただし、<domain-override> パラメータが存在し、<domain-override> が使用され、TCP、UDP、および TLS (\_sip\_protocol [UDP、TCP、または TLS]) の個別のエントリを自動的に検索しようとします。Stream Control Transmission Protocol (SCTP) はサポートされていません。SRV クエリで結果が得られない場合、プロキシ検出は失敗し、エンド ユーザにはコールが利用できないことを示すエラーが表示されます。この場合、SIP 登録はありません。ただし、すべての SRV クエリが失敗した場合、またはそこで受信したサーバが機能しない場合でも、フォールバックとして、クライアントは設定されたスタティック プロキシが機能するかどうかをチェックします。これは、<PROXY ADDRESS> で指定された URI への A クエリのみで、動作する SIP 登録を提供する IP アドレスを生成するかどうかを確認するためです。この最後の手段の場合、ポートとトランスポートは *tcp-threshold* と <secure> のパラメータから実行されます。

3. A レコードクエリを使用して検出された URI を解決します。受信した最終的な IP アドレスは、SIP プロキシへの作業接続を取得するために受信された順序で試行されます。この順序は、DNS のサービス プロバイダーによって定義できます。A レコードルックアップが成功する最初の SIP プロキシ URI が選択され、動作しなくなるか、クライアントがログアウトするまで使用されます。A-query ステップでは、複数の IP アドレスが受信された場合でも、一度に1つのアドレスだけが使用されます。ただし、すべての SRV エントリは、ログアウトまたはネットワークが失われるまで解決されます。

#### 重要な注記

**メモ1:** DNS プロキシ検出により、トランスポートプロトコルの動作する SIP プロキシ URI を受信して SRV

ステップでトランスポートプロトコルを選択すると、設定ファイルで UDP または TCP を選択するために通常使用される *tcp-threshold* パラメータが上書きされます。

これは、SIP/TLS の設定にも適用されます。DNS の優先度に応じて TCP または UDP が使用されます。

**メモ2:** SRV

経由で受信された項目は、設定ファイルの静的プロキシよりも優先されます。

NAPTR順序は参照されず、SRV優先順位のみカウントされます。

SRVがトランスポートプロトコル、優先順位、重量が等しい複数の項目で発生した場合、受信した項目はランダムに選択されます。このリリースではNAPTRウェイトはサポートされていませんが、SRVウェイトはサポートされています。SRVの優先順位はまず調べられ、同じ優先順位を持つ項目については、次に特定のサーバを試す可能性を判断するためにweightが調べられます。

**注3:** オプションの *domain-override* パラメータを使用すると、NAPTRの結果が省略されたときに、SIPドメイン設定パラメータの名前以外のAレコード名をSRVで解決できます。*domain-override*パラメータの使用例については、次の例を参照してください。

**注4:** クライアントはDNS操作にオペレーティングシステムプリミティブを使用し、通常はDNS応答のTTLを尊重するためにDNS応答がキャッシュされます。

**注5:** NAPTRレコードのDNSタイプ(サービス)はRFC 3263手順に従う必要があります。そうしないと、DNS解決に失敗する可能性があります。たとえば、SIP over TLSにはSIPS+D2Tを使用する必要があります。

**注6:** クライアントは、NAPTRサービスの特定のプレフィックスのみをサポートします。以下に、サポートされているプレフィックスを示します。

SIP+D2U -> `_sip._udp`

SIP+D2T -> `_sip._tcp`

SIPS+D2T -> `_sips._tcp`

SIPS+D2T -> `_sips._tls`

NAPTR 応答に、サービスタイプと一致しないプレフィックスのレコードが含まれている場合、このレコードは無視されます。

#### 例 1: ドメインオーバーライド設定パラメータなしで DNS プロキシ検出を使用する

以下は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返すときに、SIP プロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" >
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```
1. record-domain.com の NAPTR クエリ、回答:
record-domain.com.
28591 NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
2. _sip._tcp.test.sip.record-domain.com の SRV クエリ (NAPTR クエリで受信)、応答
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.
3. test.sipgeo.record-domain.comのAレコードクエリ、回答:
test.sipgeo.record-domain.com. 1.2.3.4の16
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で、IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

## 例 2: 設定ファイルで domain-override パラメータを使用する

以下は、SIP ドメインがプロキシドメインと異なり、UDP 上の SIP のみが使用され、NAPTR クエリが結果を返さない SIP プロキシ検出を使用した設定の 2 番目の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, no answer.
2. SRV query for _sip._tcp.override-domain.com (from configuration file),
answer
_sip._tcp.override-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.override-domain.com.
3. A-record query for test.override-domain.com, answer:
test.sipgeooverride-domain.com. 16 IN A 4.3.2.1
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して UDP 経由で、IP アドレス 4.3.2.1 に対して行われます。

### 例 3: SRVの優先順位の使用

次の例は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返すときに、SIP プロキシ検出を使用した設定の例ですが、異なる優先順位を持ついくつかの NAPTR レコードと SRV レコードが受信されます。この場合、このリリースイベントでは SRV の優先度だけが重要になりますが、さまざまな優先順位を持ついくつかの NAPTR レコードも受信されます。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 120 10 "S" "SIPS+D2U" "" _sip._udp.test.sip.record-domain.com.

2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

SRV query for _sip._udp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._udp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
20 10 5062 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP を介して、UDP と TCP の両方をサポートする IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

### 例4: サービスがサービスタイプと一致しない場合に、NAPTR で DNS プロキシ検出を使用する

以下は、SIP over

TCPとTLSが使用され、ステップ1のNAPTRクエリが結果を返すときに、SIPプロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" tcp="true" udp="false" tls="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```

1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tls.test.sip.record-
domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.

2. For the first record we have service type "SIPS+D2T" and the prefix is
"sip._tls.". Since this prefix doesn't match the service type (see Note 6
above) it will be ignored.

3. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4

```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で、IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

### 6.1.7 SIP の優先ポート使用状況

別のソフトウェアパッケージがクライアントと同じマシンで実行され、デフォルトの SIP ポートを占有している場合があります。SIP に別のポートを使用するようにクライアントを設定するには、*preferred-port* パラメータを使用できます。クライアントは、*preferred-port* パラメータで指定された設定されたポート値を使用しようとしませんが、使用すると、クライアントは設定された値を超えるポート値を段階的に試行します。たとえば、優先ポートの値が「6000」で、そのポートが取得されている場合、クライアントは未使用のポートを見つけるまで、6001、6002、6003などを試行します。未使用のポートが見つかったら、それを独自の SIP 通信に使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	カワサキ ・S60	番号	通信に優先するローカル SIP ポートを指定します。 例: カワサキ・S60

### 6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック

SIP フェールオーバーとフェールバックは、Cisco BroadWorks の手順に従います。このためには、複数のプロキシ（通常は SBC）を設定する必要があります。

クライアント側では、プロキシを複数の IP アドレスに解決する必要があります。次のいずれかの方法でこれを実現できます。



- SIP プロキシ検出が有効になっており、DNS サーバに SBC FQDN の NAPTR および/または SRV レコードがあります (セクション [6.1.6 動的 SIP プロキシ検出](#) を参照)。または
- SIP プロキシ アドレスは FQDN として提供され、複数の IP アドレスに解決されます (セクション [6.1.1 SIP サーバーの設定](#) を参照)。

オペレーティング システム DNS キャッシュは、不要な DNS トラフィックを回避するために使用されます。リスト内の IP アドレスの最大数にハードコードされた制限はありません。

サインイン時に、複数の IP アドレスが解決された場合、それらは優先順位によって順序付けられます。クライアントは最初に使用可能な IP アドレスを使用し始めます。

#### 6.1.8.1 SIP フェールオーバー

SIP フェールオーバーは、ソケットエラー、リクエストタイムアウトエラー、またはサーバからの決定的なエラー応答のいずれかによってトリガーされる場合があります。

- ソケットエラー - ネットワーク接続が失われた場合と同様に、クライアントとサーバ間のソケットが壊れているか閉じている場合、クライアントはすぐに反応し、フェールオーバーをトリガーします。
- タイムアウト (SBC がハングする場合など) - SIP T1 に基づく:
  - SIP INVITE - INVITE リクエストがタイムアウトすると、クライアントは次の利用可能な SBC (IP) に登録され、INVITE を再試行します。
  - 別の SIP リクエスト - クライアントは次の利用可能な SBC (IP) に登録しようとします。
- サーバーから受け取った決定的なエラー応答:
  - サーバから SIP REGISTER への次の SIP エラー応答は、フェールオーバーをトリガーします。
    - 5日
    - FCトウルク
  - SIP REGISTER に対する次の SIP 4xx 応答は、フェールオーバーを引き起こしません。
    - 401 権限がありません
    - 403 Forbidden
    - 404 見つかりません
    - 407 プロキシ認証が必要です
    - 423 インターバルが短すぎます
  - さらに、SIP INVITE への 4xx エラー応答はフェールオーバーをトリガーしませんが、5xx と 6xx はフェールオーバーをトリガーします。

フェールオーバーがトリガーされると、クライアントはリストから次の使用可能な IP アドレスを取得します。SIP T1 タイマーは、リスト上のプロキシが次のプロキシに移動する前に試行される時間を定義します。通常、32 秒の値が使用されます ( $64 \times T1$ )。すべての IP アドレスが失敗した場合、クライアントは SIP 接続のユーザーインターフェイス エラーを表示します。フェールオーバーが発生したときに VoIP コールが進行中の場合、コールは終了します。

SIP フェールオーバー ロジックは、いくつかの設定パラメータに依存します。

- SIP フェールオーバータイマー - SIP タイマー T1、T2、および T4 は設定ファイルで公開されますが、変更することは推奨されません。

```
<config><protocols><sip>
<timers>
  <T1>500</T1>
  <T2>4000</T2>
  <T4>5000</T4>
</timers>
```

- T1 - ネットワークの往復遅延の時間（ミリ秒）。
- T2 - 非招待要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒）。
- T4 - メッセージがネットワークに残るまでの最大時間（ミリ秒）。
- SIP プロキシ アドレスと SIP プロキシ 検出
  - セクション [6.1.1 SIP サーバーの設定](#) を参照してください。
  - セクション [6.1.6 動的 SIP プロキシ 検出](#) を参照してください。
- フェールオーバー設定を登録する（以下を参照）

フェールオーバーの場合、Webex アプリケーションは 2 つの Contact ヘッダーで SIP REGISTER を送信します。1 つは古いセッション用で、2 つ目は新しいデバイス情報用です。古いセッションの連絡先ヘッダーは、データをクリーンアップするように SBC に通知するために含まれています。このヘッダーには expires=0 と q=0.5 が含まれます。

新しいデバイス情報が含まれる連絡先ヘッダーには、<q-value>タグから読み取られた q 値もあります。<q-value>タグの値は、特定の連絡先の基本設定または優先順位を示すために使用されます。0 から 1.0 の範囲で、1.0 が最も優先度が高く、0 が最も低いです。このタグには値を制御するカスタムタグがありません。1.0 にハードコードされています。展開で使用する SBC にリバース ロジックがあり、最大優先度で q=0.0 を扱う場合、値は手動で調整できます。

リリース 42.11 以降、設定テンプレートに新しい <register-failover> セクションが導入されます。アプリケーションが古いデバイス情報をクリーンアップするために Contact ヘッダーを送信するかどうかを制御するために、新しい設定可能なパラメータ <registration-cleanup> が追加されました。一部の SBC は、ソケット切断時に古いセッションをすぐにクリーンアップするため、古いセッションの Contact ヘッダーの存在は必要ありません。デフォルトでは、登録クリーンアップロジックが有効になっています。

一貫性を保つため、`<q-value>`タグも同じ`<register-failover>`セクションに移動します。

例:

```
<config>
<protocols><sip>
  <q-value>1.0</q-value> <!-- DEPRECATED -->
  <register-failover>
    <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-cleanup>
    <q-value>1.0</q-value>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
<code>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</code>	true	true、false	SIP フェールオーバーの場合に古いデバイス情報のクリーンアップを制御します。

#### 6.1.8.2 SIP フェイルバック

優先順位によって優先順位がないプロキシにクライアントが接続されている場合、優先順位が最も高い IP に再接続しようとします。フェイルバックの時間は、DNS TTL 管理設定に基づいています (セクション [6.1.8.4 DNS TTL の管理](#) を参照)。フェールバック タイマーに到達したときにコールが進行中の場合、クライアントはすべてのコールが完了するまで待機し、フェールバック手順をトリガーします。SIP 接続はモバイルの通話中のみアクティブであるため、これはデスクトップクライアントに対してのみ有効であることに注意してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
<code>%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%</code>	true	true、false	SIP フェールバックを有効/無効にします。
<code>%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%</code>	900	60を超える	SIP フェールバック タイムアウト (秒単位)。
<code>%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%</code>	false	true、false	SIP フェールバックのランダムピリオド [0-10]% を追加します。

#### 6.1.8.3 IP バージョンを強制する

Webex クライアントは、DNS を介して解決済みホストのリストを発注し、SIP フェールオーバーの場合にそれらを反復する方法を設定できます。すべてのモードでは、優先順位と重量が尊重されます。

サポートされる構成:

- dns - DNS クエリによって返されるすべてのアドレスを使用します
- ipv4 - IPv6 アドレスをフィルタリングする
- ipv6 - IPv4 アドレスをフィルタリングする
- prefer-ipv4 – IPv6 (リリース 42.9) の前に IPv4 アドレスを注文します。
- prefer-ipv6 – IPv4 (リリース 42.9) の前に IPv6 アドレスを注文します。
- nat64 – IPv6 アドレスを無視し、IPv4 アドレスを注文します (リリース 44.2)

環境/ネットワーク構成に異なるモードが必要でない限り、デフォルト値 (dns) を使用することを推奨します。

「dns」設定では、IPv4 アドレスは、指定されたホストの IPv6 アドレスよりも優先されます。IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つ 2 つのホストがある場合、順序は IPv4(host1)、IPv6(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host2) です。

「prefer-ipv4」モードでは、IPv6 アドレスの前に IPv4 アドレスが注文されます (IPv4 および IPv6 グループ内の注文は維持されます)。

例: IPv4(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host1)、IPv6(host2)。

「prefer-ipv6」モードでは、順序は逆です。IPv6 アドレスは IPv4 アドレスの前に配置されます。

例: IPv6(host1)、IPv6(host2)、IPv4(host1)、IPv4(host2)。

「nat64」モードでは、IPv6 アドレスは無視され、IPv4 の順序が尊重されます。IPv6 プレフィックスが検出されました。各 IPv4 アドレスに対して、各 Pref64 プレフィックスおよび/またはサブプレフィックスとの組み合わせが作成されます。

例: Pref64(1)::IPv4(host1), Pref64(2)::IPv4(host1)::Suff64(2), IPv4(host1)::Suff64(3), Pref64(1)::IPv4(host2)::Suff64(2), IPv4(host2)::Suff64(3).

```
<config>
<protocols><sip><transports>
<enforce-ip-version>%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%</enforce-ip-
version>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WX T%	dnsアドレス	IPVv4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 .0v4.0v4.0v 4.0v4.0v4.0 v4.0v4.0v4. 0v4.0v4.0v4 . ipv6 dnsアドレ ス 好ましいipv 4 好ましいipv 6 ナット64	Webex クライアントが SIP セッションを接続するために使用する IPv4/IPv6 アドレスの順序を制御します。

#### 6.1.8.4 DNS TTL の管理

現在使用されているサーバの DNS レコードの TTL が期限切れになったときに、DNS 解決が再実行される方法を管理するために、別の設定パラメータが追加されました。次の表のパラメータを有効にすると、現在使用されているサーバの DNS SRV または A レコードの TTL が期限切れになると、クライアントが DNS 操作を再実行するように強制されます。

DNS 解決が再実行された後、このパラメータは、現在の接続が完全に機能している場合でも、現在使用されているサーバと異なる場合、受信した最優先サーバに再接続するようにクライアントに強制します。ただし、再接続は継続中のコールが終了した後にのみ行われます。

サーバ A と SRV レコードの TTL が異なる場合、小さい値が選択されます。

このパラメータを無効にすると、TTL が期限切れになったときに DNS 操作は再実行されず、15 分ごとに実行されます。

このパラメータは SIP でのみ機能します。

プロキシアドレスパラメータで IP アドレスを使用する場合、DNS TTL 管理機能を使用できないことに注意してください。

**メモ:** モバイルクライアントは通話中に SIP 接続のみであるため、これはデスクトップのみの機能です。

```
<config>
<protocols><sip>
<refresh-on-ttl enabled="%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%"
 use-random-factor="%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	false	false、true	「false」に設定すると、SIP では DNS TTL 管理が無効になります。 「true」に設定すると、SIP に対して DNS TTL 管理が有効になります。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	false	false、true	有効にすると、DNS TTL に 0 ~ 10% のランダムな期間を追加します。

**メモ:** DNS

TTL ランダムファクターを有効にして、DNS へのリクエストの急増や、アプリケーションサーバーへの再接続の試みの急増を防ぐことを強くお勧めします。

### 6.1.9 SIP SUBSCRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行

Communicator は、SIP SUBSCRIBE および REGISTER のリフレッシュ間隔の設定をサポートします。SIP SUBSCRIBE には、更新間隔（秒単位）と、エラー（秒単位）がある場合、クライアントが SIP SUBSCRIBE を再試行するまで待機する時間に関する別のパラメータがあります。subscription-retry-interval の推奨最大値は 2000000 秒ですが、負、0、または空の値の場合は 1800 秒が使用されます。サブスクリプション更新で負の値を入力すると、Expires ヘッダーが消去され、1 回限りの SUBSCRIBE が作成されます。

クライアントが提案する SIP REGISTER 更新タイマーは秒単位で設定できますが、SIP 仕様に従って、サーバは値を上書きできます。現在、クライアントは、常に設定された値を使用するのではなく、サーバが提案した値を記憶し、その後の更新を行います。

最後に、SIP セッション（SIP INVITE および SUBSCRIBE）の期限切れ値を設定することもできます（秒単位）。

```
<config>
<protocols><sip>
<subscription-refresh-interval>10800</subscription-refresh-interval>
<subscription-retry-interval>60</subscription-retry-interval>
<registration-refresh-interval>300</registration-refresh-interval>
<session>
  <expires-value>3600</expires-value>
</session>
```

### 6.1.10 REGISTER で P-Associated-URI を使用する

関連する 200 OK 応答を登録および処理する場合、次のパラメータが使用されます。

パラメータが「false」に設定されている場合、クライアントは *P-Associated-URI* を使用せず、代わりに独自の SIP URI の ID を使用します。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-alternative-identities>%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%</use-alternative-identities>
```

パラメータが「true」に設定されている場合、クライアントは、REGISTER の *P-ASSOCIATED-URI* ヘッダーから独自の ID を取得します。さらに、これらの URI は連絡先リスト内の連絡先として表示されません。200 OK 応答からのすべての発信 SIP リクエスト（INVITE、SUBSCRIBE、CANCEL、INFO、および REFER）の最後の

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	false	true、false	SIP REGISTER での代替 ID の使用を有効にします。 「true」に設定すると、クライアントは発信 SIP 要求の最後の <i>P-関連-URI</i> ヘッダーから独自の ID を取得します。 「false」に設定すると、発信 SIP 要求の独自の ID が独自の SIP URI から取得されます。

### 6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー

SIP *P-Early Media* (PEM) ヘッダーは、たとえば、トラストドメイン内の IMS 環境で使用して、他のネットワークがすべてのアーリーメディアを許可する場合など、ネットワークが複数の SIP アーリーメディアダイアログを承認できるようにします。

設定パラメータにより、SIP シグナリングでの広告 PEM サポートが有効になります。実際の初期メディア処理ロジックは、サポートされている PEM ヘッダー値に基づいて動作する PEM ケースと非 PEM ケースの両方で同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-p-early-media>%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%</support-p-early-media>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	false	true、false	SIP シグナリングでクライアント広告の PEM サポートを有効にするには、「true」に設定します。  SIP シグナリングでクライアント広告の PEM サポートを無効にするには、「false」に設定します。

### 6.1.12 SIP UPDATE サポート

SIP 更新は、たとえば、一部の IMS 展開で、代替の RE-INVITE の代わりに必要です。クライアントは、メディアストリームのセットやコーデックなどのセッションのパラメータを更新できますが、SIP ダイアログの状態には影響しません。

典型的なユースケースは、例えばリングバックトーンとプレアラートを同時に使用する場合など、初期のメディアに関連しています。

SIP UPDATE は、現在、プレダイアログ ユースケース (アーリーメディア) で受信された場合にのみサポートされており、アクティブダイアログではサポートされていません。たとえば、再招待 (RE-INVITE) がまだ使用されているコールの保留/再開などです。

このリリースでは、SIP UPDATE (メディア変更) を使用してビデオを音声に追加することはできません。さらに、クライアントはリソース予約による完全な IMS ロングコールフローをサポートしていません。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-update enabled="%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%"/>
```



タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP UPDATE サポートは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP UPDATE サポートが有効になります。</p>

### 6.1.13 レガシー SIP INFO FIR

このクライアントは、SIP INFO メディア制御要求を介してビデオ キーフレームを要求する従来の方法をサポートします。これは、一部のデバイスで RTCP-FB FIR への応答に問題があり、場合によっては RTCP がリモートエンドポイントにスルーされないため、ビデオなしまたは一方方向ビデオにつながる可能性があるためです。詳細は、RFC 5168を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<force-sip-info-fir enabled="%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP INFO FIR サポートは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが有効になります。</p>

### 6.1.14 NAT トラバーサル の SIP rport 管理

クライアントは、NAT トラバーサル の SIP rport メカニズムを使用するように設定できます。通常、NAT トラバーサル のための唯一の解決策ではなく、SBCがこの目的のために主に使用されることに注意してください。rportの仕様については、RFC 3581を参照してください。

ネットワークで SIP アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) が使用されている場合の SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド』を参照してください。

「rport」文字列は、設定に関係なく、発信 SIP 要求に常に存在することに注意してください。このパラメータは、SIP の「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーでサーバから受信した IP アドレスとポートの使用にのみ影響します。この機能を有効にすると、SIP 要求の SIP Contact ヘッダーに「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーの値が使用されます (REGISTER 応答に「received」ヘッダーがない場合でも)。

*Preferred-port* パラメータは、SIP Contact ヘッダーで使用されるポートを定義する点に関連しています。SIP ポートの割り当てに関する詳細は、セクション [6.1.7 SIP の優先ポート使用状況](#) を参照してください。

クライアントソケットのローカルポートを *use-local-port* があります。これは、(Contact ヘッダーに設定するように強制する、別の設定パラメータ Contact ヘッダーから) クライアントが実際の IP を持つことを検出する SBC で使用され、SBC はクライアントへの要求に対して別のソケットを確立しようとします。ほとんどの場合、ファイアウォールは SBC とクライアントの間に位置し、クライアントへの着信接続を拒否します。

**メモ:** IPv6 環境では、すべてのアドレスが本物であり、SBC は (連絡先ヘッダーから) リスニングクライアントアドレスへの接続を確立しようとします。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-rport enabled="%ENABLE_USE_RPORT_WXT%" use-local-
port="%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	false	true、false	音声コールとビデオコールの rport を有効にします。
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	false	true、false	クライアントのソケットのローカルポートを SIP Contact ヘッダーに追加するかどうかを制御します。

### 6.1.15 SIP セッション ID

有効にすると、初期登録時にローカル セッション ID が生成されます。セッション ID は、そのデバイスの接続/セッションの寿命、不在中のすべてのダイアログ、REGISTER、SUBSCRIBE、NOTIFY などに使用されます。バインディングが失われるまで同じセッション ID が使用されます。登録バインディングが失われた場合 (DNS ルックアップ、接続リセット、電話リセットなど)、新しいローカルセッション ID が生成されます。

セッション ID の値を使用して、そのデバイスに関連付けられたダイアログの完全なセットを検索できます。

```
<config>
<protocols><sip>
```

```
<sip-sessionid enabled="%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	false	true、false	SIP セッション ID の使用を制御します。

### 6.1.16 着信通話拒否の動作

クライアントは、**486**または**603**の通話を拒否する柔軟性を提供します。

クライアントが**603 Decline**を使用してコールを拒否するように設定されている場合、話中転送および無応答時転送サービスが期待通りに機能しない場合があります。

```
<config>
<services><calls>
<reject-with-486 enabled="%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	true	true、false	着信 SIP コールを拒否するために使用される SIP エラーコードと理由を制御します。有効にすると、 <b>486 一時利用不可</b> が使用されます。それ以外の場合は、 <b>603 Decline</b> が使用されます。

### 6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲

クライアントは、SRTP にも適用される Real-Time Transport Protocol (RTP) ストリームに定義されたポート範囲を使用するように設定できます。この設定は、次の例に示すタグを使用して、オーディオストリームとビデオストリームのポート範囲制限値を設定することによって行われます。

```
<config>
<protocols><rtp>
<preferred-audio-port-start>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%/preferred-audio-port-start>
<preferred-audio-port-end>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%/preferred-audio-port-end>
<preferred-video-port-start>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%/preferred-video-port-start>
```

```
<preferred-video-port-end>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-video-port-end>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	8000	番号	オーディオポート範囲の開始。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	8099	番号	オーディオポート範囲の終了。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	8100	番号	ビデオポート範囲を開始します。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	8199	番号	ビデオポート範囲の終了。

**メモ:** ポート範囲は、重複しないように設定する必要があります。

### 6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)

クライアントは、エンドポイント間のメディアパスの最適化（ピアツーピア方式）を可能にする Interactive Connectivity Establishment (ICE) ネゴシエーションをサポートします。これにより、データの遅延を低減し、パケット損失を低減し、アプリケーションを展開する際の運用コストを削減します。

現在の実装は STUN サーバをサポートしていますが、TURN はサポートされていません。

ICE サポートが有効になっている場合、SRTP の再キーは常に実行されます (セクション [6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイムトランスポートプロトコル](#) を参照)。

リリース 44.5 以降、Webex アプリは NAT64 を使用して IPv6 を介した ICE のサポートを追加します。

```
<config>
<protocols><rtp>
  <ice enabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
    enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
    mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
    service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
    port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	false	true、false	ICE サポートを有効/無効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%RTP_ICE_MODE_WXT%	Icestunさん	Icestunさん	ICE サポートモード。 現在サポートされている値は「Icestun」のみです。
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	(空)	有効な STUN サーバ URI または (空)	STUN サーバ URI。
%RTP_ICE_PORT_WXT%	3478	ナンバー (0~65535)	STUN サーバポート。
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	false	true、false	ICE over IPv6 を有効にします。

### 6.1.19 RTCPのMUX

RTCP MUX は設定可能です。この機能により、クライアントは RTP と RTCP に同じポートを使用します。SIP/SDP シグナリングレベルでは、ライン `a=rtcp-mux` が SDP に追加されます。さらに、さまざまなモードが可能です。

- 下位互換モード (つまり、行 `a=rtcp-mux` は SDP には表示されません)
- 多重化モード (`a=rtcp-mux` ラインは SDP で 2 回表示されます。 `m=audio` セクションで 1 回、`m=video` セクションで 2 回目)

ビデオと音声は同じポートを使用しません。

```
<config>
<protocols><rtp>
<mux_enabled="%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%"/>
```

SRTP コールでは RTCP MUX を使用できないことに注意してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	true	true、false	RTCP MUX を有効にするには、「true」に設定します。 RTCP MUX を無効にするには、「false」に設定します。

## 6.1.20 転送

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、出席者 (コンサルティング)、セミコンサルティング、ダイレクト (ブラインド) コール転送をサポートします。

半協議型コール転送では、コールがリモート呼び出し元によってピックアップされる前に、発信者が転送を完了できます。呼び出し元側で呼び出しが開始され、対応する SIP 通知 (180 呼び出し中) が発信者側で受信された後のみ、半協議完了ボタンが有効になります。ブラインド転送は、UIで「今すぐ転送」と呼ばれます。

### メモ: SIP 180 リンギング

は、一部の環境、一部の番号、または一部のクロスサーバー通信シナリオではトリガーされない場合があります。

### Webex アプリのリリース 43.9

では、同じタイプの別のスタンドアロン通話への転送が導入されます。Webex アプリで終了した通話は、ローカル エンドポイントで終了した他の通話に転送できます。

また、リモート デバイスで終了したコールは、リモート エンドポイントで終了したコールに転送できます。

この機能には設定可能なオプションがありません。

### リリース 43.12 以降、Webex アプリは [転送]

メニュー項目が選択されている場合に現在の通話を自動的に保留にするかどうかを制御する設定オプションを追加します。この動作は、新しい *auto-hold* 属性によって制御されます。

デフォルトでは、自動保留は無効になっています。

```
<config>
<services><calls>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"
    xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%"
    type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
    auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、通話転送が有効になります。 「false」に設定すると、通話転送は無効になります。
%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	別のロケーションで終了したリモート (XSI) コールの転送オプションを有効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%	満	トークファースト、ブラインド、フル	BroadWorks 設定でユーザーが使用できる転送タイプを指定します。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	false	true、false	ユーザーが通話中の画面メニューから [転送 (Transfer)] オプションを選択すると、アクティブなコールが自動的に保留になるかどうかを制御します。

### 6.1.21 N-way 会議コール と参加者

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの SIP を介したアドホック (N-Way) 会議コールの可用性を制御できます。さらに、N-way の所有者は、SIP SUBSCRIBE/NOTIFY および会議イベントパッケージを介して参加者の完全なリストを表示できます。オーナーのクライアントは、参加者に対して同じ情報が前のコール情報 NOTIFY にある間、会議 URI への INVITE に応答して送信された **Contact** ヘッダーを介して SIP SUBSCRIBE を送信する URI を学習します。200 OK メッセージの SIP

Cisco BroadWorks システム設定 (*maxConferenceParties*) は、会議参加者の最大数を設定するために使用されます。特定のコールの場合、「参加者の追加」通話中コントロールオプションまたは Cisco BroadWorks N-way Calling 機能を使用して、ユーザーが持つか、または追加できるアクティブな同時パーティの数を示します。

この情報は、次のコマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドを使用して、アプリケーション サーバ (AS) から取得されます。

```
AS_CLI/SubscriberMgmt/Policy/CallProcessing/Conferencing> get
```

```
Example output:
maxConferenceParties = 6
conferenceURI =
```

*maxConferenceParties* の値を取得したら (4~15 の範囲内)、それに応じて %MAX\_CONF\_PARTIES\_WXT% タグを設定する必要があります。

```
<config>
<services><calls>
<conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%">
  <service-uri>sip:%BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-1%</service-uri>
  <subscribe-conference-info enabled="%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%">
    <max-nway-participants>%MAX_CONF_PARTIES_WXT%</max-nway-participants>
</conference>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	ユーザに対して [会議 (Conference) ] オプションを有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	false	true、false	N-way オーナー参加者リストを有効にするには、「true」に設定します。 N-way オーナー参加者リストを無効にするには、「false」に設定します。
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	10	4から15までの数 (空)	クライアントによって強制される最大 N 方向の参加者番号 (たとえば 10) を指定します。 サーバー側には独自の制限があります。 空の値は、N-way 参加者制限のクライアント側の強制を無効にします。

### 6.1.22 コールプル

コールプル機能は、次の例に示すように、1つの設定パラメータを使用して有効にできます。

```
<config>
<services><calls>
<call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%" />
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	false	true、false	コールプルを有効にします。

### 6.1.23 コールパーク/保留解除

グループコールパーク機能を使用すると、継続中の VoIP コールを Call Park サーバに転送できます。これにより、発信者は別のことを実行し、同じユーザーまたは別のユーザーによって取得できます。進行中のコールは、コールパークグループ内で最初に利用可能な内線番号に対してパークされます。



コール取得は、ユーザがコールをパークした直後の設定可能な秒数で、ダイアログでコールをパークすることによって実行できます。または、パークされたコールは、コール検索オプションを選択し、番号または内線番号を入力して、ユーザまたは別のユーザによって取得できます。

```
<config>
<services><calls>
<call-park enabled="%ENABLE_CALL_PARK_WXT%"
timer="%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	false	true、false	コールパーク/取得を有効にします。
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	10	5から30までの数	[パークされたコール (Call Parked) ]ダイアログが正常に表示されてから自動的に閉じられるまでの秒数を指定します。

#### 6.1.24 通話の統計

セッション開始プロトコル (SIP) BYE メッセージの通話終了統計をレポートすることで、通話が終了したときに通話統計をリモートエンドに送信できます。コール統計は、SIP BYE メッセージまたはそれに対応する 200 OK 応答の新しいヘッダーとして送信されます。この統計には、送受信された Real-time Transport Protocol (RTP) パケット、送受信された合計バイト、失われたパケットの総数、遅延ジッタ、往復遅延、および通話時間が含まれます。

```
<config>
<services><calls>
<call-statistics enabled="%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	false	true、false	通話メトリクスのキャプチャを有効にするには、「true」に設定します。 通話メトリクスのキャプチャを無効にするには、「false」に設定します。

### 6.1.25 コール自動回復 / シームレスなコールハンドオーバー

ユーザが継続中の VoIP コールを持っている間、クライアントはスイッチングネットワークでのコール自動回復をサポートしています。通話自動リカバリは、WiFi ネットワークを切り替えながら、Cellular Data-to-WiFi と WiFi-to-Cellular Data の両方向に機能します。コールは 1 分以内に回復され、停止します。継続中の VoIP コールが複数ある場合は、アクティブなコールだけが復元されます。

Cellular Data-to-WiFi 移行では、クライアントは終了またはセルラー データ ネットワークが失われるまで、セルラー データで継続中の VoIP コールを維持します。

```
<config>
<services><calls>
<auto-recovery enabled="%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	false	true, false	ユーザに対して自動リカバリメカニズムを有効にするかどうかを制御します。

### 6.1.26 通話の録音

コール録音機能はクライアントによってサポートされており、機能のサーバー側の可用性および設定オプションによって異なります。この機能は、有効な XSI イベント チャネル（セクション [6.1.33 XSI イベント チャネル](#) を参照）と、X-BroadWorks-Correlation-Info SIP ヘッダーを送信するように設定されたアプリケーション サーバ（AS）によって異なります（Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド を参照）。

この機能が無効になっている場合、ユーザーには録画ボタンとオプションはありません。通話の録音は、通話ベースではなく、ユーザーごとに動作します。つまり、通話の参加者の 1 人が通話録音をサポートしている場合、その通話を録音できます。

コール録音機能が有効になっている場合、コールが録音されているときには常に視覚的な表示があります。次の通話録音モードは、Cisco BroadWorks でサポートされています。

#### 常時

- 通話録音は、通話確立時に自動的に開始されます。
- ユーザーは通話の録音を停止/一時停止できません。

#### Always with Pause/Resume サポート

- コール録音は、コール確立時に自動的に開始されますが、ユーザーはコールを一時停止して再開することができます。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:

- 録画が進行中です - **録画を一時停止**します。
- 録画が一時停止中です - **録画を再開**します。

#### オンデマンド

- コールが確立されると、サーバでコール録音が始まります。
- ユーザが通話中に [録音の開始 (Start Recording)] オプションを押すと、通話録音は保存され、起動から通話を保持します。 そうしないと、ユーザから開始録音が始まらない場合、コール録音はサーバ上で削除されます。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:
  - まだ録画が開始されていません - **録画を開始**してください。
  - 録画が進行中です - **録画を一時停止**します。
  - 録画が一時停止中です - **録画を再開**します。

#### ユーザーが開始したオンデマンド

- ユーザは、通話中に何度でも通話録音を開始、停止、一時停止、再開できます。
- 通話録音の起動ごとに、別の通話録音があります。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:
  - まだ録画が開始されていません - **録画を開始**してください。
  - 録画が進行中です - 録画の**停止**と**一時停止**のアクション。
  - 録音が一時停止中です - 録音の**停止**と**再開**のアクション。

ユーザーに割り当てられた通話録音モードは、Control Hub から選択できます。

```
<config>
<services><calls>
<record enabled="%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	false	true、false	通話録音コントロールを有効にします。

#### 6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks ボイスメールとビジュアル ボイスメールの可用性を制御できます。ボイスメールでは、Cisco BroadWorks システム タグ (%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%) が使用されます。

Visual Voicemail (VVM) は音声のみに対応しています。サポートされている形式は、H264 ビデオを含む wav、ulaw、mov です (音声のみとして再生されます)。これにより、ユーザーは着信ボイスメールをリストビューで表示し、個々の項目を再生できます。この機能は Xsi に基づいていますが、新しいボイスメールの通知は SIP 経由で提供されるため、通知が機能するには SIP を有効にする必要があります。さらに、通知が届くには SIP SUBSCRIBE for Message Waiting Indicator (MWI) 設定が必要で、ビジュアルボイスメールが機能するには MWI を有効にする必要があります。SIP 設定の詳細については、セクション [6.1.1SIP サーバーの設定](#) を参照してください。

ビジュアルボイスメールの Cisco BroadWorks リリースおよびパッチ要件については、『[Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド](#)』を参照してください。

ビジュアルボイスメールは、設定で個別に有効にする必要があります。

ビジュアルボイスメールを使用するには、CommPilot ポータルで次の設定が必要です。

- 音声メッセージングが有効
- 「メッセージが届いたら、統合メッセージングを使用する」オプションが有効になっています
- [電話メッセージ待機インジケータを使用] オプションが有効になっています

ユーザーの Cisco BroadWorks 側にビジュアルボイスメールサービスが割り当てられていない場合、サービスの設定は自動的に無効になります。

SIP 登録を無効にすると、新しいボイスメールの MWI も無効になります。MWI の有効化の詳細については、次の表を参照してください。

UI にボイスメールメッセージ情報を表示するには、クライアントはサーバから SIP MWI 通知 (つまり、ボイスメール イベント パッケージ) を受信する必要があります。サブスクリプションオプションについては、次の表を参照してください。また、ビジュアルボイスメール通知が機能するには、MWI が必要であることに注意してください。

ボイスメール イベント パッケージへの SIP サブスクリプションが失敗した場合、クライアントはそのように設定されたときに再試行し続けることに注意してください。SIP SUBSCRIBE 再試行設定の詳細については、セクション [6.1.9SIP SUBCSRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行](#) を参照してください。

```
<config>
<services><calls>
<mwi enabled="%ENABLE_MWI_WXT%" type="%MWI_MODE_WXT%"/>
<voice-mail enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%" visual-voicemail="%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%">
  <center-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</center-number>
</voice-mail>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	ボイスメールのサポートを有効にするには、「true」に設定します。 ボイスメールのサポートを無効にするには、「false」に設定します。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、VVMは無効になります。 「true」に設定すると、VVMが有効になります。 実際の VVM 属性の前に voice-mail enabled=false が後方互換性のためにまだ使用されていることに注意してください。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%	空	番号	クライアントは通常、ボイスメールをダイヤルするときに、既存の Cisco BroadWorks システム タグを使用して指定されたこの番号を呼び出します。
%ENABLE_MWI_WXT%	false	true、false	MWI を有効にするには、「true」に設定します。 。 MWI を無効にするには、「false」に設定します。 。
%MWI_MODE_WXT%	空	暗黙的、明示的	MWI が有効になっている場合、MWI イベントパッケージの SIP SUBSCRIBE を送信するには、「明示的」に設定します。 。 「implicit」を使用すると、MWI が有効になっている場合、MWI イベントパッケージの SIP SUBSCRIBE は送信されません。 空の場合、MWI は無効になります。

### 6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし

この機能により、ボイスメール メッセージはテキストに変換され、Webex Calling デスクトップ およびモバイル アプリのビジュアル ボイスメール メッセージ ビューに表示されます。

この機能は、次の場合にのみ、ユーザーに対して有効にする必要があります。

1. アプリは Webex Calling 展開で実行されています。
2. ビジュアル ボイスメール機能がユーザーに対して有効になっています。
3. この機能は設定で有効になっています (<services><voice-mail><transcription> タグの enabled 属性は “true” に設定する必要があります)。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	false	true、false	[Webex Calling のみ] ビジュアルボイスメールが有効になっている場合にのみ、ボイスメールの文字起こしの可用性を制御します。

### 6.1.29 通話設定

#### 6.1.29.1 通話転送常時

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks Call Forwarding Always サービスの可用性を制御できます。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<call-forwarding-always enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	false	true、false	Call Forwarding Always サービスの可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は無効になっています。

**メモ:** 常に通話転送とボイスメールへの通話転送 ([6.1.29.2ボイスメールへのコール転送](#)) を一緒に使用して、Webex  
 アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。  
 両方のタグが無効になっている場合、Webex  
 アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

### 6.1.29.2 ボイスメールへのコール転送

リリース 43.9 以降、Webex

アプリはボイスメールへの転送の可用性を制御するオプションを提供します。

デフォルトでは、この機能は有効になっており、次の設定オプションを使用して無効にできます

。

```
<config>
<services>
  <voice-mail>
    <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	true	true、false	ボイスメールへの転送の可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は有効になっています。

**メモ1:**

この機能は、ユーザーに割り当てられる「ボイスメッセージングユーザ」または「サードパーティのボイスメールサポート」サービスのいずれかに依存します。

**メモ2:** ボイスメールへのコール転送と常にコール転送 ([6.1.29.1通話転送常時](#))

を一緒に使用して、Webex

アプリで「コール転送」設定を表示または非表示にできます。

両方のタグが無効になっている場合、Webex

アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

### 6.1.29.3 BroadWorks Anywhere (シングル ナンバー リーチ)

次のカスタム タグは、BroadWorks Anywhere の可用性と Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定の可用性を制御します。クライアント内のこの機能の名前は *マイ番号の管理* です。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<broadworks-anywhere enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%">
  <description enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%" />
  <alert-all-locations
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%" />
  <call-control enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%" />
  <diversion-inhibitor
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%" />
  <answer-confirmation
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%" />
</broadworks-anywhere>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	false	true、false	設定レベルで BroadWorks Anywhere (BWA) を有効にします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	true	true、false	ユーザが BWA ロケーションの説明を利用できるかどうかを制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、BWA サービスのすべてのロケーションにアラートがユーザーに使用可能になります。 BWA サービスのすべてのロケーションにアラートを送信できないようにするには、「false」に設定します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	false	true、false	アプリケーションが [すべてのロケーションにアラート (Alert All Locations) ] 状態を有効にするかどうかを制御し、2 番目以降の新しい BWA ロケーションを追加します。



タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	ユーザが BWA ロケーションのコール制御を使用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションのコール制御のデフォルトの状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転用阻害剤をユーザに使用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの Diversion Inhibitor のデフォルト状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	false	true、false	ユーザが BWA ロケーションの応答確認を利用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの応答確認のデフォルトの状態を制御します。

### 6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは設定 (セルフケア) ポータルへのアクセスを提供し、ユーザはアプリケーションとサービスの設定の一部を構成できます。

さらに、クライアントは、代わりに **Call Settings Web View (CSWV)** を使用するオプションを提供します。これにより、ユーザはサーバーベースのコール設定をさらに制御できます。個別のタグを使用して、Web ベースの通話設定で特定のサービスを表示するかどうかを制御できます。

#### メモ: Call

Center (セクション [6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト](#) を参照) や BroadWorks Anywhere (セクション [6.1.29.3 BroadWorks Anywhere](#) を参照) など、アプリケーションですでに表示される設定を非表示にすることをお勧めします。Remote Office サービスは、BroadWorks Anywhere サービスによって継承されているため、非表示にすることをお勧めします。

次のカスタム タグを使用して、設定（セルフケアまたは CSWV）ポータル URL を設定できます。タグが空の場合、設定ポータルへのリンクはアプリケーション内のユーザーには表示されません。

```
<config>
<services>
<web-call-settings target="%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%"
  <url>%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%</url>
<branding-enabled="%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%">
  <service-settings>
    <service name="Call Forwarding Always"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding Busy"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding Not Reachable"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNr_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding No Answer"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CfNA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Do Not Disturb"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Anonymous Call Rejection"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Simultaneous Ring Personal"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Sequential Ring"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Automatic Callback"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Waiting" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Calling Line ID Delivery Blocking"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Personal Assistant"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Center - Standard"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="BroadWorks Anywhere"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="BroadWorks Mobility"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Remote Office" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Voice Messaging User"
  visible="%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%"/>
  </service-settings>
<userportal-settings> <url>%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%</url></userportal-
settings>
</web-call-settings>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、 csw	管理ポータル モードを制御します。 外部ブラウザで設定済み設定ポータル URL を開くには「外部」に設定します。 追加のパラメータセクション<services><web-call-settings>を使用して、埋め込みブラウザでCSWポータルを開いてcswに設定し、POSTリクエストを作成します。
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	設定ポータルの URL。 例: <a href="https://settings.webex.com">https://settings.webex.com</a>
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	true	true、 false	Web ベースの設定で [常にコール転送 (Call Forwarding Always) ] オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	true	true、 false	Web ベースの設定で [サイレント (DND) (Do Not Disturb (DND)) ] オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	true	true、 false	Web ベースの設定で、ユーザに対して匿名着信拒否 (ACR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	true	true、 false	Web ベースの設定で [話中転送 (CFB) (Call Forwarding Busy (CFB)) ] オプションがユーザに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNRR_VISIBLE_WXT%	true	true、 false	Web ベースの設定で [コール転送が到達不可 (CFNR) (Call Forwarding Not Reachable (CFNR)) ] オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [無応答コール転送 (CFNA) (Call Forwarding No Answer (CFNA)) ] オプションがユーザに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [同時呼び出しパーソナル (SIMRING) (Simultaneous Ring Personal (SIMRING)) ] オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [シーケンシャルリング (SEQRING) (Sequential Ring (SEQRING)) ] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザに対して Remote Office (RO) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [自動コールバック (ACB) (Automatic Callback (ACB)) ] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [コール待機 (CW) (Call Waiting (CW)) ] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザに対して [発呼回線 ID 配信ブロック (CLIDB) (Calling Line ID Delivery Blocking (CLIDB)) ] オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で Personal Assistant (PA) オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で BroadWorks Anywhere (BWA) オプションがユーザーに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定でコールセンターオプションがユーザーに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で BroadWorks モビリティ (BWM) オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。 。 現在、Cisco BroadWorks 版 Webex と BroadWorks Mobility 間の相互運用性の問題により、推奨値は [false] です。
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザに対して音声管理 (VM) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	false	true、false	新しい通話設定 WebView ブランディングを使用するかどうかを制御します。サーバ側の CSWV バージョンが 1.8.6 以上の場合に有効にします。そうでない場合はfalseのままにします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	電子メール/ボイスメールメッセージのオプションが Web ベースの設定に表示されているかどうかを制御します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	ユーザー設定ポータル URL を指定します。 この機能を有効にして、UI で [ユーザーポータルのアクセス (Access User Portal) ] ボタンを表示するには、このカスタムタグを空にしないでください。例: <a href="https://settings.webex.com">https://settings.webex.com</a>
%USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、内部	埋め込みまたは外部ブラウザで URL を開くかどうかを指定します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT%	false	true、false	組み込みブラウザが設定されている場合にのみ適用されます ( USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT=internal )。有効にすると、HTTP POST リクエストが使用され、BroadWorks の短命トークンが BODY の一部として追加されます。無効にすると、URL は HTTP GET で開きます。

**メモ1:** 通話設定 WebView URL には常に末尾の [ / ] が設定されている必要があります。

例: http(s)://<XSP-FQDN>/<CSW-Context-Path>/

**メモ2:** サポートされている通話設定 WebView アプリケーションの最小バージョンは 1.7.5 です。

Cisco BroadWorks リリース 21.0 へのインストールについては、『Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド』に記載されている追加手順を参照してください。

### 6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト

Webex アプリは、コールセンター（コールキュー）エージェント設定へのアクセスを提供します。ユーザーがコールセンターにプロビジョニングされている場合、この機能により、ユーザーはコールセンターにログインし、利用可能なコールキューを表示したり、キューに参加または参加解除したり、自動コール分配（ACD）ステータスを設定したりできます。

デスクトップリリース 42.8 およびモバイルリリース 42.12 以降、コールセンター（コールキュー）エージェントは、コール設定 Web ビューに基づいていません（セクション [6.1.30設定ポータル およびウェブベースの通話設定](#) を参照）。コールセンター（コールキュー）エージェントの設定は、モバイル Webex アプリのデスクトップと設定のフッターからアクセスできます。

```
<config>
<services>
<call-center-agent enabled="%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	コールセンターのサポートを有効にします。

### 6.1.32 XSI ルートとパス

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、サインインに使用されるものと異なるように設定する必要がある場合は、次のタグを使用して、XSI ルート、アクション、イベント パスを制御します。

XSI Root を変更する主な理由は、設定レベルでロードバランシングを実装することですが、代わりに HTTP レイヤーでロードバランシングを使用することをお勧めします。

通常、Events パスと Actions パスはブランディング要件により変更され、クライアントによって実行される XSI HTTP 要求の URL パスから *com.broadsoft* ドメイン参照を削除します。

```
<config>
<protocols><xsi>
  <paths>
    <root>%XSI_ROOT_WXT%/</root>
    <actions>%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%/</actions>
    <events>%XSI_EVENTS_PATH_WXT%/</events>
  </paths>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%XSI_ROOT_WXT%	設定フェッチに使用される元のフェッチを引き続き使用します。	URL 文字列	すべての XSI 操作の XSI ルート。 例: <a href="https://domain.com/">https://domain.com/</a>
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/	文字列	XSI アクションパスを指定します。 「/」で開始および終了し、アクションコンテキストのみを含める必要があります。 例: /com.domain.xsi-actions/ /com.domain.xsi-actions/ /com.domain.xsi-actions/
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/ /com.broadsoft.xsi-events/	文字列	XSI Events パスを指定します。 「/」で開始および終了し、イベントのコンテキストのみを含める必要があります。 例: /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/

### 6.1.33 XSI イベント チャネル

XSI Event チャネルは、次のようなさまざまなサービスに使用されます。

- XSI 中間コール制御
- コール設定ステータスの通知
- 通話の録音

XSI Events ハートビートは、XSI Event チャネルを開いたままにするために使用され、ハートビート間隔は次のパラメータを使用して指定できます。

```
<config>
<protocols><xsi>
<event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
```



```
<heartbeatInterval> %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeatInterval>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	true	true、false	XSI Event チャンネルが有効になっているかどうかを制御します。 通話中制御サービス関連イベントなど、受信するには「true」に設定する必要があります。 推奨値は「true」です。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	10000	番号	これは、XSI Event チャンネルのハートビート（ミリ秒）です。 デフォルトは「10000」です。

### 6.1.34 コーデックの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex は、さまざまな音声およびビデオ コーデックを提供します。コーデックの各リストは、*config/services/calls*の下にあります。各コーデックの優先順位は、0.0（最小）から1.0（最高）の値である *audio/codecs*および *video/codecs*セクションのXML属性優先順位を使用して変更できます。

Webex アプリは、次のコーデックを正式にサポートしています。

- 音声
  - Opus
  - G.722
  - G.729
  - PCMU (G.711U)
  - PCMA (G.711A)
  - iLBC
- ビデオ
  - H.264

```

<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      <codec name="opus" priority="1" payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4" payload="" framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
    ...
  <video>
    <codecs>
      <codec name="H264" payload="109" resolution="CIF" framerate="25"
      bitrate="768000" priority="1.0">
      <packet-mode>0</packet-mode>

```

クライアントは H.264 をビデオコーデックとしてサポートします。ビデオ解像度の属性を使用して、次のいずれかの使用可能な値を設定できます。SUBQCIF、QCIF、CIF、4CIF、VGA、HD。

設定でビットレートが入力されていない場合、デフォルトのビットレート値が使用されます。解像度とフレームレートごとのデフォルトビットレートの値を、次の表に示します。

解像度	ビデオサイズ *	FPS (1秒あたりのフレーム)	解像度および FPS ごとのデフォルトのビット レート値
SUBQCIF	128 x 96	15	128000
QCIF	176 x 144	30	192000
CIF	352 x 288	15	384000
CIF	352 x 288	30	768000
VGA	640 x 460	15	2000000
4CIF	704 x 576	25	2000000
HD	960 x 720	30	2000000

\* アドバタイズされた最大ビデオ解像度。Cisco BroadWorks 版 2 つの Webex クライアント間の通話中の実際のビデオ解像度は、両方のクライアントの機能によって異なります。2 つのクライアントのうち低くなり、両方のクライアントで同じになります。

ビデオ通話のビデオ解像度は、セッションのセットアップ中にネゴシエートされ、2 つのエンドポイントの機能に基づいています。ビデオ通話の解像度は両方のエンドポイントで同じです。つまり、Cisco BroadWorks 版 Webex エンドポイントに異なる機能がある場合（そのため、異なる解像度をサポート）、低い解像度がコールに対してネゴシエートされます。ネットワーク状態が悪化すると、通話中にビデオ解像度の変更される場合があります。この場合、2 つのモバイルエンドポイントが異なるビデオ解像度を使用している可能性があります。

パケット化モードは、SingleNAL (0) または Non-interleaved (1) に設定できます。テンプレートはデフォルトで SingleNAL を使用します (<packet-mode>0</packet-mode>)。

複数の電話イベント設定もサポートされています。コーデックのネゴシエーション中に、クライアントは複数の電話イベントを含む、設定されたすべてのコーデックを送信します。オーディオコーデックが選択されると、オファアの電話イベントが検索されます。オファアにネゴシエートされた音声コーデックのサンプルレートを持つ電話イベントがある場合、この電話イベントが選択されます。それ以外の場合は、リスト内の最初の電話イベントが使用されます。オファアの電話イベントがまったくない場合、インバンドデュアルトーンマルチ周波数 (DTMF) が使用されます。

設定されたコーデックの例:

```
<codec name="telephone-event" payload="100" in-band="false" />
<codec name="telephone-event" payload="101" clockrate="48000" in-band="false" />
```

サンプルレートが 48kbps のオーディオコーデックがネゴシエートされている場合、ペイロード 101 の電話イベントが使用されます。

### 6.1.35 SIP-URI ダイヤリング

現在、BroadWorks を介した SIP-URI ダイヤルは使用できず、デフォルトでは、すべての SIP-URI コールは Locus 経由でルーティングされます。一部の環境では、これは望ましくなく、そのようなコールはブロックされるべきです。

**メモ:** これは、Locus コールが無効になっている場合にのみ適用されます。  
この場合のみ、SIP URI ダイヤルブロッキングが機能します。

このオプションは、次の設定で提供されます。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <sip-uri-dialing enable-locus-
calling="%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%" />
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	true	true、false	SIP-URI を Locus 経由でルーティングする (true) か、ブロックする (false) かを制御します。

### 6.1.36 すべてのデバイスでの通話履歴

クライアントは、コール履歴をローカルに保存する代わりに、サーバから保存および取得する機能を提供します。これにより、すべてのデバイスで通話履歴が統合されます。

#### メモ:

通話履歴または重複レコードの欠落を避けるために、クライアント側とサーバー側で統一された通話履歴を同時に有効にする必要があります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	false	true、false	アプリケーションが Unified Call History またはクライアント側（ローカル）を使用する必要があるかどうかを制御します。

### 6.1.37 ビデオ通話を無効にする

リリース 41.9 では、ビデオ コールを無効にする機能が追加されました。BroadWorks がサポートする VoIP コールと Locus（無料）VoIP コールに対して、この機能を制御するための個別の設定オプションがあります。

機能が有効で、機能タグが「false」に設定されている場合:

- ユーザーは「ビデオで着信を承諾する」設定が表示されません
- 受け入れられた場合、すべての着信ビデオ通話は音声通話になります
- ユーザーはビデオへのコールをエスカレーションすることができず、ビデオエスカレーションは自動的に拒否されます

ビデオ コールが有効になっている場合、新しい設定プロパティが追加され、[ビデオで着信コールを受け入れる] 設定のデフォルト値が制御されます。デフォルトでは、この機能はデスクトップでオンになり、モバイルとタブレットでオフになります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	BroadWorks を介した SIP ビデオ コールの可用性を制御します。
%ENABLE_LOCUS_VIDEO_CALLS_WXT%	true	true、false	Locus（無料）ビデオ通話の可用性を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	デスクトップ - true モバイル/タブレット - false	true、false	[ビデオで着信を受け付ける] 設定のデフォルト値を制御します。

### 6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート

デスクトップおよびタブレットの Webex クライアントは、BroadWorks 版 Webex 展開の E911 緊急コールプロバイダーとして、RedSky、Intrado、または帯域幅を使用した E911 ロケーションレポートをサポートします。E911 プロバイダーは、デバイスごとのロケーションサポート (Webex デスクトップ アプリとタブレット アプリと HELD 対応の MPP デバイス) と、米国、その領土 (グアム、プエルトリコ、ヴァージン諸島)、およびカナダのみの PSAP に緊急通話をルーティングするネットワークを提供します。サービスはロケーションに基づいて有効にできます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	false	true、false	E911 プロバイダーの緊急ロケーションプラットフォームを有効にします。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダー緊急ロケーションプラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求に使用される顧客 ID (HeldOrgId、CompanyID)。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証する秘密。
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV 文字列	E911 プロバイダーでサポートされている緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (ユーザーには再度プロンプトが表示されません)	ナンバー [0 - 43200]	現在のロケーションが入力されていないか、無効な場合、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用される、分単位のタイムアウト。 有効にする場合、推奨される値: 1440年 (永明2年)。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザは常にダイアログをキャンセルできます)	数字 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーションダイアログを閉じることを許可された時間 (つまり、ロケーションウィンドウを閉じることはできません)。 可能な値: <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ N = -1 (ユーザは常にダイアログをキャンセルできます)</li> <li>▪ N = 0 (ユーザはダイアログをキャンセルできません - 常に必須の場所)</li> <li>▪ N &gt; 0 (ユーザは、必須になる前に [N 回] ダイアログをキャンセルできます)</li> </ul>
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	攻撃的な once_per_login	一度ログインする	E911 ロケーションプロンプト動作を定義します。 。「アグレッシブ」の値は、各ネットワークが未知の場所に変更された場合にダイアログをユーザーに表示し、「once_per_login」の値は、ダイアログを1回だけ表示し、ユーザーのさらなるポップアップと注意散漫を防止します。

**メモ1:** BWE911-\*\*\*タグは「動的組み込みシステムタグ」です。  
詳細については、[第5.7Cisco BroadWorks 動的組み込みシステムタグ](#)項を参照してください。

**メモ2:** VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンスの唯一の意味のある値 (%EMERGENCY\_CALL\_DIAL\_SEQUENCE\_WXT%) は cs-only です。

### 6.1.39 アイデンティティとしての PAI

着信コールの場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーと P-Asserted-Identity (PAI) ヘッダーの優先度、および発信回線 ID として使用するものを制御します。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがある場合、SIP From ヘッダーと PAI ヘッダーよりも優先して使用されます。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがない場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーが PAI ヘッダーよりも優先されるか、またはその逆であるかを決定します。

<use-pai-as-calling-identity> タグの enabled 属性が "true" に設定されている場合、PAI ヘッダーは From ヘッダーよりも優先的に使用されます。この発信者 ID は、連絡先を解決し、ユーザに提示するために使用されます。

発信コールの場合、このロジックは適用されません。18X、200 OK 応答では、接続された回線 ID が受信されるため、Webex アプリケーションは常に優先度を持つ SIP PAI ヘッダーを使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_PA1_AS_CALLING_ID ENTITY_WXT%	false	true、false	ユーザに提示された発信 ID を SIP From または SIP P-Asserted-Identity ヘッダーから取得するかどうかを制御します。PAI ヘッダーを優先的に使用するには、「true」に設定します。

### 6.1.40 画面共有を無効にする

リリース 42.5 では、画面共有の可用性を制御する機能が追加されました。画面共有が無効になっている場合:

- 1 ~ 1 回の通話で画面共有を開始するオプションが表示されない
- 受信画面共有要求が拒否され、ユーザーに有益なメッセージが表示されます

デフォルトでは、この機能は有効になっています。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SCREEN_SHARE _WXT%	true	true、false	ユーザーに対して画面共有を有効にするかどうかを指定します。

### 6.1.41 スпам通話の表示

機能トグル (展開タイプごと) が有効で、設定ファイルで機能が有効になっている場合、Webex アプリは NewCall プッシュ通知または通話履歴レコードの一部として受信された場合、スパム通話確認ステータスを示す新しいパラメータを処理します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	false	true、false	Webex Calling のみの着信通話画面と通話履歴のスパム通話通知の可用性を制御します。

### 6.1.42 PSTN/モバイルコールのノイズ除去と帯域幅拡張

ノイズ除去は、PSTN またはモバイル デバイスで Webex 以外のユーザーと通話するときに、通話するユーザーにより良い通話エクスペリエンスを提供します。リリース 43.12 では、デフォルトでノイズ除去がオンになっています。

Webex アプリのリリース 44.2 では、ナローバンド PSTN 通話用の新しい着信音声メディア スピーチ AI の機能強化が導入されました。

- 狭帯域幅の PSTN スペクトルの帯域幅を拡張してノイズを除去することで、音声品質を向上させる新しい帯域幅拡張アルゴリズムが追加されました。拡張された帯域幅は、明瞭性を高め、リスニング疲労を減少させます。
- 既存のノイズ除去アルゴリズムが強化され、保留音やその他のオーディオトーン (ビープ信号など) の制限が削除されます。
- この機能を有効にすると、ユーザーは「スマートオーディオ - 外部」インジケータを表示し、着信オーディオメディアのスピーチ AI 強化を制御できます。

デフォルトでは、これらの音声強化は有効化され、オンになっています。ユーザは、[音声設定 (Audio Preferences)] の [スマート音声設定 (Smart Audio Settings)] を使用して、初期状態を制御できます。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
    </calls>
  </services>
</config>
```



タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	false	true、false	外部（着信）メディアの音声強化を有効にします。

**メモ:** ノイズ除去は追加の音声拡張機能の一部となり、<noise-removal> タグは新しい <speech-enhancements> タグによって廃止されました。ノイズ除去のカスタム タグ %ENABLE\_NOISE\_REMOVAL\_WXT% も非推奨です。

### 6.1.43 QoS DSCP マーキング

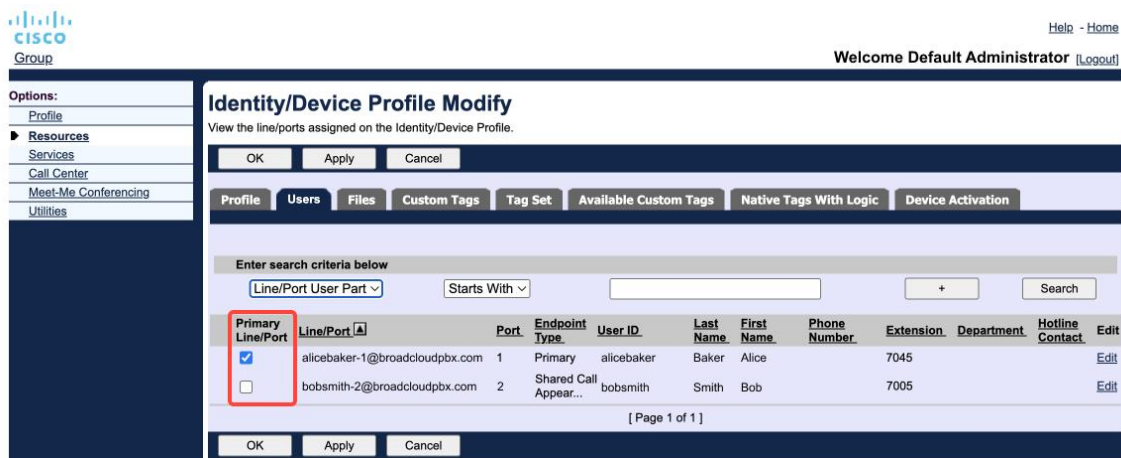
QoS DSCP マーキングは、Webex アプリ通話メディア RTP パケット（音声とビデオ）でサポートされています。DSCP は、ネットワークデータのトラフィック分類を決定します。これは、どのネットワークトラフィックがより高い帯域幅を必要とし、優先度が高く、パケットをドロップする可能性が高いかを判断するために使用できます。

**メモ:** Microsoft Windows オペレーティングシステムの最近のバージョンでは、アプリケーションが直接送信パケットに DSCP または UP を設定することは許可されていません。代わりに、UDP ポート範囲に基づいて DSCP マーキング ポリシーを定義するために、グループ ポリシー オブジェクト（GPO）の展開が必要です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUDIO_QOS_WXT%	true	true、false	音声通話の QoS を有効にします。
%AUDIO_QOS_VALUE_WXT%	46	0-63 から	音声コールに対して選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が指定されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。
%ENABLE_VIDEO_QOS_WXT%	true	true、false	ビデオ通話の QoS を有効にする
%VIDEO_QOS_VALUE_WXT%	34	0-63 から	ビデオ コールで選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が指定されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。

## 6.1.44 プライマリプロフィール

共有回線（[6.2.12 マルチライン - 共有ライン アピアランス](#)）の統合により、ユーザーの回線が別のユーザーと共有されている場合、そのユーザー用に設定された同じタイプの複数のプロフィールが存在する場合があります。電話サービスにサインインする正しいプロフィールを選択するには、Cisco BroadWorks が拡張され、ユーザーがデバイスを所有しているか、すなわちデバイスのプライマリ回線/ポートが割り当てられているかどうかを示します。Cisco BroadWorks の更新の詳細については、「[Webex クライアントの共有回線をサポートするためのデバイスリストの所有者フラグ](#)」にチェックを入れます。



Primary Line/Port	Line/Port	Port	Endpoint Type	User ID	Last Name	First Name	Phone Number	Extension	Department	Hotline Contact	Edit
<input checked="" type="checkbox"/>	alicebaker-1@broadcloudpbx.com	1	Primary	alicebaker	Baker	Alice		7045			Edit
<input type="checkbox"/>	bobsmith-2@broadcloudpbx.com	2	Shared Call Appear...	bobsmith	Smith	Bob		7005			Edit

管理ポータルでのアイデンティティ/デバイスプロフィールのプライマリ回線/ポート設定

リリース 43.2 以降、新しい設定オプション (*device-owner-restriction*) が追加され、プライマリプロフィールの制限を適用するかどうかを制御されます。Webex アプリケーションがプライマリではない回線/ポートプロフィールを使用して電話サービスにサインインできるようにするために使用できます。この設定オプションは、ユーザに設定されているプロフィールの数に関係なく、すべての設定に適用されます（デバイスの所有権制限が有効で、対応するプラットフォームにプライマリ回線/ポートを持つデバイスが存在しない場合、電話サービスは接続されません）。

同じ制限は、ユーザーがデスクトップ Webex アプリでペアリングできるデバイスに適用されます。ユーザーは、所有しているデバイスでのみ表示およびペアリングできます。これにより、共有または仮想回線が割り当てられている別のユーザーのデバイスとペアリングできなくなります。同じ設定パラメータの値も、この制限に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
<device-owner-restriction enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	true	true、false	デバイス所有者の制限を制御します。電話サービスが特定のデバイスのプライマリプロファイルを使用する場合

**メモ:** 所有者の制限を有効にすることをお勧めします。無効にすると、電話サービスはサインインした最初のプロファイルを使用します。同じタイプのユーザに対して複数のプロファイルが設定されている場合、いくつかの問題が発生する可能性があります。

#### 6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ)

43.5 以降、Webex アプリはユーザー定義の電話番号ブロック リストを導入します。この機能が有効になっている場合、ユーザーは特定の番号からの着信コールをサーバー側でブロックし、ユーザーのデバイスで配信しないように指定できます。ユーザは、これらのブロックされたコールを通話履歴で確認できます。

ユーザーは、[通話設定 (Calling Preferences)] と [通話履歴 (Call History)] の 2 つの場所からブロック リストを設定できます。基本設定では、ブロックされた番号のリストを表示して編集できます。[通話履歴 (Call History)] では、ユーザが定義したブロック リストによってブロックされたコールの通話履歴レコードを確認できます。これらのレコードは、番号がユーザー定義のブロック リストにある場合に表示をブロックし、ユーザーは指定されたレコードの番号を直接ブロック解除するオプションがあります。ブロックオプションも利用できます。

ユーザー定義ブロック リストに追加された番号のルール:

- 番号フォーマット
  - Calling 基本設定からのブロックは、Webex アプリで E.164 形式の制限をローカルに適用します
  - 通話履歴からのブロックは、すべての Webex Calling レコードに対して許可されます
  - Cisco BroadWorks は、番号形式に基づいてブロック リストに追加された新しい番号の要求を許可または拒否できます。
- 内部番号 - 内部番号からの着信は、ユーザー定義のブロック リストの一部である場合でも、ユーザーに配信されます。

ユーザー定義ブロック リストは、Cisco BroadWorks で構成され、ユーザーのすべての WxC デバイスに適用されます。この機能は、管理者定義ブロック リストとともに機能します。このブロック リストは、ユーザーによって構成可能ではなく、Control Hub を通じて管理者によるのみ制御できます。管理者が定義したブロック リストによってブロックされた着信コールの通話履歴レコードはありません。

ユーザー定義ブロック リストは、STIR/SHAKEN、管理者定義ブロック リスト、および匿名コール拒否ポリシーの後に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
<call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	true	true、false	ユーザー定義のブロック リストを有効にする 「true」に設定すると、通話設定と通話履歴のブロック リストが表示されます。

**メモ:** この機能は、ユーザーに割り当てられている Cisco BroadWorks Call Block サービスによって異なります。

## 6.1.46 メディア適応とレジリエンス実装 (MARI)

### 6.1.46.1 率の適応

Webex アプリケーションには、音声ビデオ パケット損失の影響を受けないようにするためのアダプティブ メディア クオリティ テクニックがすでに統合されています。また、ビデオがビデオ レートの適応を活用して、輻輳時に使用される帯域幅を管理できるようにします。

レート適応または動的ビット レートの調整は、コール レートをパケット損失条件に基づいて、使用可能な可変帯域幅、ダウンスピード、またはビデオ ビット レートのアップスピードに合わせます。エンドポイントは、受信者からパケット損失があることを示すメッセージを受信するときにビット レートを減らし、パケット損失が減少すると、ビット レートのアップスピードが発生します。

レート適応メカニズムの使用を制御する設定は設定できません。

### 6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)

リリース 43.4 以降、Webex アプリはメディア適応メカニズムに、オーディオメディアとビデオメディアの両方に対する転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX) のサポートを追加します。

FECは、事前に決定されたアルゴリズムを使用して、送信された情報に冗長性を提供します。冗長性により、受信者は送信者に追加のデータを尋ねることなく、限られた数のエラーを検出して修正することができます。FECは、データの再送信を要求するためにリバースチャネル (RTCPなど) を必要とせずにエラーを修正する機能を提供しますが、この利点は、固定されたより高い転送チャネル帯域幅 (送信されたパケット数) のコストです。

エンドポイントは、768 kbps 未満の帯域幅で FEC を使用しません。また、FECを導入する前に、少なくとも1.5%のパケット損失が発生している必要があります。エンドポイントは通常、FECの有効性を監視し、FECが効率的でない場合は使用されません。

FECは、再送信よりも多くの帯域幅を消費しますが、遅延は少なくなります。RTXは、小さな遅延が許可され、帯域幅の制約がある場合に使用されます。大きな遅延と十分な帯域幅の場合、FECが望ましい。

Webex アプリは、特定のメディア ストリームのネゴシエートされた帯域幅と遅延許容度に応じて、RTX または FEC を動的に選択します。FECは、ビデオデータの冗長化により帯域幅の使用率が高くなりますが、失われたパケットを回復するための追加の遅延は発生しません。RTXは帯域幅の使用率向上に貢献しませんが、RTP パケットは、受信者が RTCP フィードバック チャネルのパケット損失を示す場合にのみ再送信されます。RTXは、RTCP パケットが送信者から受信者に到達し、再送信されたパケットが送信者から受信者に到達するのにかかる時間により、パケットの回復遅延を導入します。

RTX を有効にするには、FEC を有効にする必要があります。

```
<config><services><calls>
<audio>
  <audio-quality-enhancements>
    <mari>
      <fec enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
        <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
        <payload>111</payload>
        <max_esel>1400</max_esel>
        <max_n>255</max_n>
        <m>8</m>
        <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
        <non_seq>1</non_seq>
        <feedback>0</feedback>
        <order>FEC_SRTP</order>
      </fec>
      <rtx enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
        <mari-rtx>90000</mari-rtx>
        <payload>112</payload>
        <time>180</time>
        <data-flow>1</data-flow>
        <order>RTX_SRTP</order>
      </rtx>
    </mari>
  </audio-quality-enhancements>
</audio>
</calls>
</services>
</config>
```

```

...
<video>
  <video-quality-enhancements>
    <mari>
      <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
        <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
        <payload>111</payload>
        <max_esel>1400</max_esel>
        <max_n>255</max_n>
        <m>8</m>
        <multi_src>1</multi_src>
        <non_seq>1</non_seq>
        <feedback>0</feedback>
        <order>FEC_SRTP</order>
      </fec>
      <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
        <mari-rtx>90000</mari-rtx>
        <payload>112</payload>
        <time>180</time>
        <data-flow>1</data-flow>
        <order>RTX_SRTP</order>
      </rtx>
    </mari>
  </video>

```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	音声通話の FEC を有効にする
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	音声通話の RTX を有効にする (有効な音声 FEC が必要)
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	ビデオ通話の FEC を有効にする
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	ビデオ通話の RTX を有効にする (有効なビデオ FEC が必要)

### 6.1.47 同じユーザーとの同時通話

1 台のデバイスで同じユーザーとの同時コールのサポートを追加します。

この機能は、コールの提示された ID が接続された ID と同じではない一部の展開に役立ちます。これにより、出席した転送を元のパーティに戻すことができなくなります。この機能を有効にすると、ユーザは同じリモートパーティで複数の同時コールを処理できます。

```

<config>
  <services>
    <calls>

```

```
<simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	false	true、false	Webex アプリで同じユーザーとの単一または複数の WxC 通話のみを使用できるかどうかを指定します。

### 6.1.48 RTCP-XRについて

リリース 43.8 以降、Webex アプリは通話中に RTCP-XR パケット交換のネゴシエーションを追加します。ネゴシエーションは SIP INVITE セッションの確立中に発生します。両方のエンドポイントが RTCP-XR パケットをサポートしている場合、Webex Media Engine はこれらのパケットの交換を開始し、アダプティブ コール品質メカニズムを支援します。この機能はデフォルトで有効になっています。

さらに、Webex Calling のみの場合、これらの追加のメトリックは SIP BYE を通じて送信され、このようにして Control Hub で公開されます。

```
<config>
<protocols><sip>
  <rtcp-xr>
    <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	true	true、false	RTCP-XR ネゴシエーションとパケット交換を有効にして、通話品質を向上させます。デフォルトで有効になっています。

### 6.1.49 コール転送情報

Webex アプリのリリース 44.2 では、通話関連画面と通話履歴の通話転送とリダイレクト情報の可視性を制御するための設定可能なオプションが導入されています。

```
<config>
<services><calls>
```

```
<call-forwarding-info enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	true	true、false	通話転送およびリダイレクト情報の可視性を制御します。 [true]に設定すると、通話関連の画面と通話履歴に情報が表示されます。

メモ: この機能では、Cisco BroadWorks 側でリダイレクト情報 (Diversion または History-Info) を有効にする必要があります。

## 6.1.50 発信者番号

### 6.1.50.1 発信者 ID (Webex Calling のみ)

Webex Mobile (リリース 44.2) およびデスクトップ (リリース 44.3) アプリでは、ユーザーが発信通話の優先外部発信者 ID を選択するための新しい機能が導入されています。利用可能なオプションのリストには以下が含まれます。

- 直通回線 (デフォルト)
- ロケーション番号
- 同じ組織のカスタム番号
- ユーザーが参加しているコールキュー。これにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます
- ユーザーが参加しているハントグループ。これにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます。
- 発信者 ID を非表示

#### 注意:

- Webex Calling のみ
- オプションの一覧は回線によって異なります。
  - プライマリ回線 – オプションのフルセット
  - 共有回線 – 利用できません
  - 仮想回線 – 通話キューオプションのみ



- すでに選択した ID が利用できなくなった場合、ユーザーのデフォルトの発信者 ID が使用されます。
- 緊急コールは、常にユーザーの緊急コールバック番号を使用します
- セクション <services><call-center-agent> の下で <outgoing-calls> タグを廃止します

利用可能なオプションのリストは、管理ポータルから設定できます。また、Webex アプリでのこれらの機能強化の可用性を制御するための個別の DMS カスタム タグもあります。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%" />
      <call-center enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%" />
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%" />
      <clid-delivery-blocking enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%" />
    </outgoing-calls>
  </caller-id>
</services></calls>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	発信コールの発信回線 ID 番号の選択を有効にします。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	false	true、false	ユーザに設定された追加番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されているコールセンター (DNIS) 番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたハントグループ番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	false	true、false	発信コールの選択として発信者 ID 配信ブロックを有効にします。

メモ: デスクトップ アプリ バージョン 44.3 はコールセンター CLID のみをサポートし、44.4 は残りのオプションのサポートを追加します。

### 6.1.50.2 リモート発信者 ID 名

コールの受信/開始時に、Cisco BroadWorks は SIP INVITE でリモートパーティの表示名を送信します。Webex アプリによってデフォルトで使用されます。同時に、Webex アプリは次の優先順位で複数のソースに対する連絡先解決を開始します。

- 共通アイデンティティ (CI)
- コンタクトサービス (カスタム連絡先)
- Outlook の連絡先 (デスクトップ)
- ローカルアドレス帳 (モバイル)

いずれかの検索ソースに対する連絡先解決が成功した場合、リモートパーティの表示名が更新されます。また、連絡先が CI で見つかった場合、通話セッションは同じユーザーの Webex クラウドサービスにリンクされ、リモートパーティのアバターとプレゼンスを表示するオプション、チャット、画面共有、Webex クラウド ミーティングにエスカレーションするオプションなどが提供されます。

Webex アプリのリリース 44.5 では、連絡先の解決を無視し、1 対 1 の Cisco BroadWorks 通話に使用される Workspaces または RoomOS デバイスでの通話の Cisco BroadWorks 表示名を常に維持するための設定可能なオプションが追加されます。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <remote-name>
      <machine mode="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%"/>

```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	解決済み	解決済み、sip	ワークスペースと RoomOS デバイスのリモートパーティの表示名を制御します。 「sip」を使用して連絡先の解決を無視し、SIP INVITE セッションで受信した表示名を使用します。

## 6.2 デスクトップのみの機能

### 6.2.1 強制ログアウト

この機能により、Cisco BroadWorks は同じデバイス タイプでオンライン クライアント インスタンスを追跡し、そのうちの 1 つをいつでもオンラインにすることができます。Cisco BroadWorks がクライアントにログアウトするように通知すると、SIP 接続が終了し、クライアントはコールが接続されていないことを示します。

この機能は、同様のクライアントが同時にオンラインになる可能性がある一部の展開で必要であり、副作用を引き起こします。例の 1 つは、職場および自宅にデスクトップ マシンを持つユーザーで、どの SIP 登録がアクティブであるかに応じて、着信コールはいずれかのクライアントによってのみ受信されます。

強制ログアウトはSIPに基づいているため、クライアントは**bsoft-call-info**パラメータ値に関係なく、**From**のSIP SUBSCRIBEを送信します。Cisco BroadWorks が同じ **appid** で複数のクライアント インスタンスをオンラインで検出すると、古いクライアント インスタンスに特別な SIP NOTIFY が送信され、ログアウトします。たとえば、クライアント側のこの識別子の使用に制限はありませんが、デスクトップクライアントは同じ **appid** 値を持つこととなります。 **appid-value** は、サービスプロバイダによって設定されます。

強制ログアウトを使用するには、SIP Call-Info サブスクリプションを有効にする必要があります。

この機能に必要な Cisco BroadWorks パッチとリリースの詳細については、『Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド』の「Cisco BroadWorks ソフトウェア要件」のセクションを参照してください。

設定の詳細については、次の例を参照してください (SIP はこのリリースでサポートされている唯一の制御プロトコルです)。

```
<config>
<services>
<forced-logout enabled="%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%" control-protocol="SIP"
appid="%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	false	true、false	強制ログアウトを有効にします。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	空	文字列	Appidは相関のためにサーバ側で使用される。これは任意の文字列です。 例: 「123abc」

## 6.2.2 コールピックアップ

コールピックアップは、選択したユーザがコールピックアップグループ内の任意の呼び出し回線に応答できるマルチユーザサービスです。コールピックアップグループは管理者によって定義され、グループ内のユーザが互いのコールをピックアップできるサブセットです。

次のピックアップケースがサポートされています。

- ブラインドコールピックアップ
- ダイレクトコールピックアップ（ユーザは、それぞれの機能アクセスコードにダイヤルしてから、呼び出し中の電話機の内線番号を入力して、グループ内の別の電話にダイレクトコールに応答できます）。

```
<config>
<services><calls>
<call-pickup blind="%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%"
directed="%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	false	true、false	ブラインドコールピックアップを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	false	true、false	ダイレクトコールピックアップを有効にするには、「true」に設定します。

## 6.2.3 Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート

Cisco BroadWorks の Executive-Assistant 機能として知られる Boss-Admin では、アシスタントがエグゼクティブに代わって操作し、通話を「エグゼクティブ」としてスクリーニング、応答、発信できます。1人のアシスタントは複数のエグゼクティブを持つことができ、次のことが可能です。

- コールを発信するときに、目的のロールを選択します。
- エグゼクティブに代わって着信コールに応答し、エグゼクティブにコールをプッシュします。それに加えて、通常のコール管理オプションはすべて利用できます。
- 着信コールが実際にエグゼクティブ向けであることを確認してください。

エグゼクティブとエグゼクティブアシスタントは、次の機能を提供する2つの相互に関連する Cisco BroadWorks サービスです。

- エグゼクティブ サービスを使用しているユーザーは、コールを管理するアシスタントのプールを定義できます。アシスタントは、エグゼクティブ アシスタント サービスが割り当てられている同じグループまたはエンタープライズのユーザーの中から選択する必要があります。
- エグゼクティブ アシスタント サービスを使用しているユーザーは、エグゼクティブに代わってコールに応答して開始できます。
- エグゼクティブとそのアシスタントは、アシスタントに転送するコール、アシスタントが着信コールについてどのようにアラートを発信するか、アシスタントに転送するコールのうちどれをエグゼクティブに提示してスクリーニングするかを指定できます。

```
<config>
<services>
<executive-assistant enabled="%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	false	true、false	Boss-Admin 機能を有効にするには、「true」に設定します。

メモ: 機能の Boss-Admin (Executive-Assistant) サポートは、共有回線との組み合わせでは利用できません。

#### 6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ)

クライアントは、進行中の SIP 通話を Webex Calling 経由でミーティングにエスカレーションする機能を提供します。標準のアドホック会議の代わりにこの機能を使用することで、ユーザーはミーティング中にビデオと画面共有を使用できるようになります。

```
<config>
<services><calls>
  <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	「true」に設定して、[Webex ミーティングにエスカレート] メニュー オプションを有効にします。

### 6.2.5 卓上電話制御通話 – 自動応答

自動応答を使用すると、ユーザはクライアントの発信コールに卓上電話制御（DPC）を使用して、タッチ応答がゼロの MPP 電話を管理できます。

選択した MPP 電話機には、発信 DPC コールの音声/ビデオが転送されます。

自動応答は、プライマリおよびプライマリ以外のプロビジョニングされたデバイスで機能します。ユーザーがペアリング可能な複数の登録済み卓上電話を持っている場合、選択された/ペアリングされたデバイスのみが自動応答します。

```
<config>
<services><calls>
<deskphone-control auto-answer="%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	true	true、false	「true」に設定すると、卓上電話制御の自動応答が有効になります。

メモ: DPC モードの間、自動応答は着信コールに影響を与えないため、デスクフォンが着信コールの呼び出し音を鳴らします。

### 6.2.6 トーン通知による自動応答

この機能は、着信コール要求で指定されている場合、ローカル デバイスの着信コール応答の自動サポートを有効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、バックエンドから要求された場合、自動着信コール応答が有効になります。

## 6.2.7 卓上電話のコントロール – 通話中コントロール – 会議

この機能により、別のロケーションで終了したりリモート（XSI）通話の会議とマージ オプションが有効になります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、別のロケーションで終了したりリモート（XSI）コールの会議とマージオプションが有効になります。

## 6.2.8 コール ピックアップの通知

コール ピックアップ通知は、ユーザが監視するように設定されているユーザへの着信コールがあるかどうかを知る機能を提供します。コール ピックアップ通知は、コール ピックアップグループとビジー ランプ フィールド サービスを通じて設定されたウォッチリストに対して受信できます。

コール ピックアップ通知は、監視対象のユーザーが物理的に互いに近寄らず、同僚の電話の呼び出し音が聞こえない場合に便利です。

### 6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド

デスクトップ Webex アプリケーションは、ビジー ランプ フィールド（BLF）ウォッチリストのメンバーが、アラート状態の着信コールを持っている場合に通知を表示します。通知には、発信者と着信コールを受信したユーザに関する情報があり、コールをピックアップ、サイレンス、または通知を無視するオプションがあります。ユーザによる着信コールに応答すると、ダイレクト コール ピックアップが開始されます。

リリース 43.4 以降、BLF で監視されるユーザーのリストは、通話用のマルチコールウィンドウ（MCW）で利用できます（Windows でのみ利用可能）。MCWにおけるBLFリストの統合には以下が含まれます。

- コールをピックアップするか、アラートを無視するオプションを使用して、着信コールを監視します。
- BLF ユーザーの完全なリストを参照してください。
- ユーザーのプレゼンスを監視する - 豊富なプレゼンスは、Webex Cloud エンタイトルメントを持つユーザーのみ利用できます。  
ベーシック（テレフォニー）プレゼンスは、BroadWorks みのユーザーに対してのみ利用できます。
- BLF ユーザーとの通話を開始します。

- BLF ユーザーとのチャットを開始する - Webex Cloud  
エンタイトルメントを持つユーザーのみ利用できます。
- 連絡先として BLF ユーザーを追加します。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <busy-lamp-field enabled="%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%">
        <display-caller enabled="%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <notification-delay time="%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%"/>
      </busy-lamp-field>
    </calls>
  </services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	false	true、false	コールをピックアップする機能を持つ他のユーザに対して、ビジー ランプ フィールドのモニタリングと呼び出し中の通知を有効にします。
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し中の通知で発信者の表示名/番号を表示できます。
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	0	0~60	呼び出し中の通知がユーザーに表示されるまでに何秒遅れるかを制御します。

**メモ:** この機能は、ダイレクトコールピックアップサービスによって異なります。

### 6.2.8.2 コールピックアップグループ (Webex Calling のみ)

リリース 44.2 以降、Webex アプリケーションは Webex Calling 展開のグループ コールピックアップ (GCP) 通知のサポートを追加します。これにより、コールピックアップグループで監視されているすべてのユーザーの着信コールについてユーザーに通知できます。

#### コールピックアップ

グループのユーザ部分の着信コールの場合、呼び出し元がコールに回答する機会が与えられます。Control Hub で設定可能な GCP 通知遅延があります。

設定された時間内に呼び出し元がコールを処理しない場合、GCP 通知がグループに送信されます。



## 同じコール ピックアップ

グループ内で複数のコールが発生した場合、受信した時間に基づいて順次処理されます。最も古いコールの通知は最初にグループに送信され、処理されると、次の通知がグループに送信されます。

通知は、Control Hub

管理ポータルの設定に応じて、音声のみ、ビジュアルのみ、または音声とビジュアルです。

視覚的な GCP 通知がある場合、ユーザはコール

ピックアップ機能を使用してコールをピックアップできます。

音声のみの通知が設定されている場合、ユーザーは着信コールの視覚的な通知が表示されず、特定の着信音が聞こえ、Webex アプリで利用可能なコール ピックアップ メニューから、または FAC コード (\*98) と内線を手動でダイヤルしてコールをピックアップできます。

ユーザは、アプリケーション設定を通じて GCP 通知をミュートできます。

この設定は、すべてのコール ピックアップ通知 (BLF および GCP)

に適用され、デフォルトでは通知はミュートになっています。

この機能は、プライマリ回線、およびユーザーに割り当てられた共有回線または仮想回線に対して機能します。

```

<config>
<services><calls>
  <group-call-pickup-notifications enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
    <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
    <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
  </group-call-pickup-notifications>
  ...
</protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    ...
  
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	false	true、false	グループ コール ピックアップ通知を有効にする

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し中の通知で発信者の表示名/番号を表示できるようにする
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	120	5 ~ 120	ユーザーに GCP 通知が利用できる最大時間を定義する
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%	false	true、false	対応する回線にコール ピックアップグループが設定されているかどうかを示します

メモ1: これは Webex Calling のみの機能です。

メモ2: この機能は、ユーザーに設定されているコール ピックアップグループによって異なります。

### 6.2.9 リモートコントロールイベントパッケージ

クリックしてダイヤルするには、BroadWorks レセプションリストのシンクライアントや Webex アプリが通話デバイスである Go インテグレーターなどのクライアントで、通話を受信したり、Webex アプリを保留/再開したりするときに、リモートコントロールイベントパッケージが優先されるようになりました。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT%	false	true、false	[true] に設定すると、リモートコントロールをユーザーに対して有効にするように指定します。

### 6.2.10 コールキューエージェント CLID の選択

エージェントが顧客にコールを発信する場合、顧客には個人または企業の CLID ではなく、適切な通話回線 ID (CLID) を確認してもらいます。たとえば、エージェント Mary Smith がテクニカルサポートコールキューに参加している場合、顧客を呼び出すときに、Mary は顧客に CLID を Mary Smith ではなくテクニカルサポートとして表示することを要求します。

Control Hub または CommPilot の管理者は、発信 CLID に使用するコール キューの 1 つ以上の DNIS 番号を指定できます。エージェントは、発信コールを行うときに CLID として使用する DNIS 番号の 1 つを選択するオプションがあります。Webex アプリは、エージェントが CLID として使用する DNIS を選択する機能を提供します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_CENTRAL_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	Call Center キューに代わって発信コール (CLID 選択) を有効にします。

### 6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ)

リリース 43.2 以降、Webex アプリケーションはサバイバビリティ コールモードのサポートを追加します。機能が有効で Webex Cloud 接続がない場合、Webex アプリケーションはサバイバビリティ モードで実行できます。このモードでは、ユーザが使用できる通話機能が制限されています。

ローカル サバイバビリティ ゲートウェイは、顧客によって展開されます。

```
<config>
<protocols>
<sip>
<survivability-gateway enabled="%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%" fallback-time="%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%">%BWSURVIVABILITYGATEWAY%</survivability-gateway>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%	false	true、false	サバイバビリティ モードのサポートを有効にします。
%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%	30	>=30	フォールバック時間を指定します (SSE へのサバイバビリティ ゲートウェイ)

**メモ:** この機能は、オンプレミスからクラウド通話ソリューションへの移行に自信を提供します。

## 6.2.12 マルチライン - 共有ライン アピアランス

リリース 42.12 以降、Webex アプリケーションは複数の回線のサポートを追加します。Webex ユーザーはプライマリ回線を持ち、最大 9 回線を他のユーザーと共有できます。

管理者は、共有回線ごとに共有コール アピアランスを設定する必要があります。

Webex クライアントは 12 時間以内の回線設定の更新を検出し、ユーザーにアプリケーションの再起動を要求します。ユーザーを再ログインすると、回線の更新がすぐに適用されます。

リリース 43.12 以降、Webex

アプリが強化され、共有回線で保留中のコールを移動する（ローカルで再開する）ことができ、別のユーザーまたは別のデバイスで同じユーザーによって処理されます。

詳細については、[6.2.15 通話を移動](#)を参照してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_MULTILINE_WXT%	false	true、false	複数回線のサポートを有効にします（設定されている場合）。無効 ("false" に設定) の場合、設定された最初の行だけがアプリケーションによって使用されます。

**メモ1:** 機能 [Boss-Admin \(Executive-Assistant\) サポート](#) は、共有回線との組み合わせでは利用できません。

**メモ2:** 追加の BroadWorks 要件については、Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide の「共有回線アピアランス」を参照してください。

## 6.2.13 マルチライン - 仮想回線 (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、Webex

アプリは仮想回線を使用したマルチライン構成をサポートします。

機能的には、仮想回線を使用した設定は、共有回線を使用したマルチ回線と一致します。ユーザー用に設定された仮想回線を確認し、着信および発信コールに使用できます。最大 10 個の仮想回線と共有回線を組み合わせて設定できます。

リリース 43.4 では、仮想回線のサポートが拡張され、コール パークとコール パーク取得が追加されます。

リリース 43.12 以降、Webex

アプリが拡張され、別のユーザーまたは別のデバイス上の同じユーザーによって処理される仮想回線で保留中の通話を移動（ローカルで再開）できます。詳細については、[6.2.15通話を移動](#)を参照してください。

以下は、仮想回線のサポートに関連する設定テンプレートの変更を示します。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
      ...
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
        <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
        ...
      </line>
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
        <external-id>%BWUSEREXTID-2%</external-id>
        ...
      </line>
      ...
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
        <external-id>%BWUSEREXTID-10%</external-id>
        ...
      </line>
    </sip>
  </protocols>
```

#### 6.2.14 リモートミュート制御イベントパッケージ (Webex Calling のみ)

リリース 43.9 以降、Webex アプリは音声メディア ストリームのリモート ミュート コール制御のサポートを追加します。これにより、Webex アプリが発信側デバイスである BroadWorks Receptionist シン クライアントのような別の場所から進行中のコールをミュート/ミュート解除できます。

この機能は、新しい SIP *x-cisco-mute-status* 情報パッケージによって異なります。コール SIP INVITE セッションの確立中に *Recv-Info:x-cisco-mute-status* ヘッダーを受信した場合、音声通話セッションのミュート状態に更新（ローカルまたはリモート）すると、Webex アプリは *Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true*（または *muted=false*）で SIP INFO を送信します。ミュートされたパラメータは、音声メディアストリームの更新された状態を表します。

ミュートまたはミュート解除は、ローカルまたはリモートロケーションからトリガーできます。リモートアップデートは、*Event* で *SIP NOTIFY* をトリガーします。ミュート（またはミュート解除）は、アプリケーション サーバーから Webex アプリに送信されます。Webex アプリはリモート リクエストを尊重し、オーディオ メディア ストリーム状態の更新後に、*Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true*（または *muted=false*）を使用して SIP NOTIFY を送信します。

```
<config>
<services>
  <calls>
    <remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%" />
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、リモートミュートコール制御がユーザーに対して有効になります。

### 6.2.15 通話を移動

Webex アプリは、別のロケーションで終了した VoIP コールの通話監視と通話制御を提供します。これは現在、ユーザーのプライマリ回線でのみ使用できます。

リリース 43.12 以降、Webex アプリが拡張され、共有回線と仮想回線でも別のロケーションで終了した通話が表示されます。このようなコールは、情報目的で進行中のコール領域に表示され、制御するオプションはありません。

このようなコールが保留中の場合にのみ、ユーザーはそれを選択してローカルデバイスに移動し、コール画面から再開できます。

このメカニズムは、コールが別のロケーションで同じユーザによって処理された場合や、同じ回線を使用して別のユーザによって処理された場合に便利です。

Webex アプリは、保留中の通話をペアリングされたデバイスに移動することはできません。ユーザがデバイスとペアリングされている場合、まず接続を切断してから、保留中のコールをローカルで再開する必要があります。

共有および仮想回線のコール モニタリングは、SIP Call-info イベント パッケージによって異なります。

ユーザのプライマリ回線のコールのモニタリングは、XSI イベント (アドバンスド コール イベント パッケージ) に依存し、ローカル デバイスにコールを移動することはできません。

このタイプのコールでは、コールプル (6.1.22 コール プル) 機能を使用できます。コールプルはユーザーの最後のアクティブ

コールに対してのみ機能し、共有回線と仮想回線のメカニズムは保留中のユーザーのすべてのコールに対して機能します。

#### 1. 使用ケース 1:

- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。

- b. Alice は Desk Phone を通して Charlie と通話しています。Alice はデスクトップアプリで進行中の通話を見ることができます。
  - c. Alice はデスクの電話からコールを保留にします。Alice はデスクトップアプリからコールを再開できます。
2. 使用ケース 2:
- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
  - b. Bob は Charlie と通話しています。Alice はデスクトップアプリで進行中の通話を見ることができます。
  - c. Bob は Charlie と通話を保留にします。Alice はデスクトップアプリから Charlie と通話を再開できます。
3. 使用ケース 3:
- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
  - b. Alice は、デスクトップアプリから卓上電話とペアリングされています。
  - c. Bob は Charlie と通話しています。Alice はデスクトップアプリで進行中の通話を見ることができます。
  - d. Bob は Charlie との通話を保留にします。Alice はデスクトップアプリから Charlie との通話を再開できません。
  - e. Alice はデスクトップアプリをデスクフォンから切断します。Alice はデスクトップアプリから Charlie との通話を再開できます。

```
<config>
<services><calls>
  <call-move>
    <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
  </call-move>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	false	true、false	ローカル デバイスでコールの移動を有効にします。 複数回線のユースケースのロケーション/ユーザー間の保留/再開に使用されます。



## 6.3 モバイルのみの機能

### 6.3.1 緊急コール

Cisco BroadWorks 版 Webex はネイティブ緊急通話をサポートしています。

この機能を有効にすると、発信 VoIP コールの開始時に、アプリケーションはダイヤル番号を分析し、設定された緊急番号のリストと比較します。番号が緊急番号として識別された場合、アプリケーションは設定されたダイヤル動作を実行します。ダイヤルシーケンスタグを使用して設定できます。

サポートされているモード:

- **cs-only** – ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワークを介してのみ緊急コールを発信します。
- **cs-first** – 緊急通話を開始すると、クライアントは現在のデバイスが接続されているネットワークタイプを確認します。セルラーネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワーク経由でコールを発信します。セルラーネットワークが利用できないが、セルラーデータ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーデータ/WiFi ネットワークを介してコールを VoIP コールとして配置します。また、緊急コールがセルラーネットワークを介して配置されている場合、クライアントは、緊急コールを VoIP として再試行するようにユーザに提案します。
- **voip のみ** – セルラー データ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントは緊急コールを VoIP としてのみ配置します。
- **cs-voip** – クライアントは、デバイスがネイティブ回路スイッチ (CS) コールとして起動できるかどうかを分析します (CS ネットワークが利用可能かどうかを考慮しません)。デバイスがネイティブコールを開始できる場合、緊急番号は緊急 CS コールとしてダイヤルされます。それ以外の場合、コールは VoIP としてダイヤルされます。

**メモ:** VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンスの唯一の意味のある値 (%EMERGENCY\_CALL\_DIAL\_SEQUENCE\_WXT%) は cs-only です。

サインイン時にユーザーに緊急コールの免責事項メッセージが表示されます。設定オプションでは制御されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	false	true、false	緊急コールの検出を有効にするには、「true」に設定します。デフォルト値は空です。
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	cs のみ	cs のみ、cs ファースト、voip のみ、cs voip	緊急コールのダイヤルシーケンスモードを制御します。
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	[911、112]	CSV リスト	緊急番号の CSV リスト。 例: 911112

### 6.3.2 コールのプッシュ通知

着信コールを受信すると、モバイルクライアントは最初にプッシュ通知（PN）を受信します。SIP REGISTER セッションを確立するタイミングを制御するために使用できる設定パラメータがあります。

1. プッシュ通知を受信したとき、または
2. ユーザがコールを受け入れる場合。

第二のアプローチが推奨されます。ただし、最初のケースと比較して、コールが確立される前に遅延が追加されます。

iOS 13 の要件によると、VoIP PN は着信コールにのみ使用する必要があります。その他の通話関連のイベントでは、通常の PN を使用する必要があります。

この要件を満たすために、新しいPN登録APIが導入され、Application Serverに対応するパッチを適用する必要があります。バックエンドが iOS 13 PN をサポートするように設定されていない場合、設定パラメータを使用して、すべてのコール関連イベントが VoIP PN 経由で配信されるレガシープッシュ通知の使用を強制できます。

呼び出し中のコールが別のロケーションの呼び出し元によって受け入れられたとき、発信者が閉じられたとき、またはボイスメールにリダイレクトされたときに、アプリケーションサーバ (AS) によって送信されるプッシュ通知があります。iOS 13 では、このタイプのプッシュ通知が通常のものになり、いくつかの制限があります。Apple Push Notification Service (APNS) によって遅延したり、まったく配信されない場合があります。不在または遅延したコール更新 PN を処理するために、設定可能な呼び出しタイムアウトが追加され、最大呼び出し時間を制御できます。最大呼び出し時間に達すると、呼び出し先の呼び出しは停止され、コールは見逃されたものとして処理されます。発信者側では、アプリケーションサーバ (AS) で設定された無応答呼び出しポリシーが実行されるまで、コールが呼び出し状態のままになる場合があります。

アプリケーションの動作を一貫させるには、設定可能な呼び出しタイマーが Android と iOS の両方に適用されます。

プッシュ通知として着信コールを受信したときのコールの拒否動作を指定するために、別の設定オプションが追加されます。クライアントは、コールを無視するか、拒否が「true」または「false」に設定された Xsi を介してサーバに応答するように設定できます。この場合、割り当てられた Cisco BroadWorks コール処理サービスが適用されます。「decline\_false」が設定されている場合、発信者が放棄するか、無応答タイマーが期限切れになるまで、コールが鳴り続け、関連するコール処理サービスが開始されます。「decline\_true」が設定されている場合、拒否の理由はコール処理を指定します。辞退の理由が「ビジー」に設定されている場合、サーバーはただちにビジー処理サービスを強制します。「temp\_unavailable」が設定されている場合、一時利用できない処理サービスが適用されます。

```
<config>
<services>
  <push-notifications-for-calls enabled="true"
  connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
  ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"/>
  <calls>
    <reject-with-xsi mode="%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%"
    declineReason="%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%"/>
  </calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	false	true、false	SIP REGSITER セッションが確立されたときの制御 - 着信通話のプッシュ通知を受信したとき、または受諾したとき。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	35	[0 ~ 180]	PN 経由で受信したコールの着信呼び出し時間の最大数を制御します。指定された期間内にCallUpd PNが受信されなかった場合、不在着信として扱われます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	拒否_フォルス	無視、decline_true、decline_false	コールの拒否動作を指定します。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	取り込み中	ビジー、temp_unavailable	拒否モードが「decline_true」に設定されている場合、コールの拒否の理由を指定します。

### 6.3.2.1 MWIについて

MWI 機能を有効にすると、モバイル Webex クライアントは MWI プッシュ通知をサブスクライブして、ユーザーのボイスメールで更新を受信し、通知します。通知の数を減らし、不要な注意散漫を避けるために、場合によっては MWI プッシュ通知が抑制されます。たとえば、ユーザーがボイスメールメッセージを聞いている場合、またはモバイル Webex クライアント内から既読としてマーキングされている場合（未読数が減少しています）。これを制御する設定可能なオプションはありません。

MWIの詳細については、セクション [6.1.27ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ](#)を参照してください。

### 6.3.2.2 リング スプラッシュ

BroadWorks サービス（DND など）は、着信がリダイレクトされたときに呼び出しリマインダを送信できます。Webex モバイル クライアントは、リング スプラッシュ プッシュ通知を有効にし、BroadWorks によってトリガーされたときにユーザーに表示するように設定できます。

```
config>
<services>
<ring-splash enabled="%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%	false	true、false	BroadWorks設定でRing Splashを有効にします。

### 6.3.3 単一のアラート

Mobile Single Alert機能は、BroadWorks Mobilityサービスを活用した固定モバイルコンバージェンス(FMC)/モバイルネットワークオペレータ(MNO)展開を対象としています。それなしでは、Webex クライアントにログインして着信コールを受信すると、ユーザーはネイティブコールとプッシュ通知 (VoIP) コールの 2 つのコールを同時に受信します。この機能が有効になっている場合、アプリケーションはログイン時にユーザーの BroadWorks Mobility ロケーションのモビリティアラートを無効にし、ログアウト時にアラートを有効にします。この機能を使用するための重要な前提条件は、ユーザが BroadWorks モビリティ サービスを割り当てられ、正確に 1 つのロケーションを設定することです。

```
<config>
<services><calls>
<single-alerting enabled="%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	false	true、false	シングルアラートを有効にするには、「true」に設定します。

### 6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)

アウトバウンドクリックしてダイヤルすることで、エンドユーザは個人の回路スイッチングされた携帯電話でコールを発信し、ビジネス DN を発信回線 ID として配信できます。

モバイル Webex クライアントは、BroadWorks Anywhere サービスを使用してクリックしてダイヤル (コールバック) 通話をサポートします。Webex アプリケーションの BroadWorks Anywhere ロケーションは、単一番号リーチ (SNR) ロケーションと呼ばれます。

この機能が有効になっている場合、ユーザーはデバイス ペアリング メニューから SNR の場所を選択できます。SNR ロケーションとペアリングすると、すべての発信コールが [クリックしてダイヤル (コールバック) (Click to Dial (Call Back))] コールを使用して開始されます。二重アラートを防ぐために、着信コールのプッシュ通知は無効になります。

ユーザが [クリックしてダイヤル (Click to Dial)] コールを開始すると、選択した SNR ロケーションで着信コールが予想される情報を含む発信コール画面が表示されます。この画面は、設定可能なタイマーに基づいて自動的に閉じられます。

SNR ロケーションから切断すると、アプリケーションは再び着信コールのプッシュ通知に登録されます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
```

```
<call-back enabled="%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%"
timer="%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	false	true、false	「true」に設定して、クリックしてダイヤル（コールバック）コールを有効にします。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	10	[3-20]	コールバック画面が自動的に閉じられるまでの秒数を制御します。

### 6.3.5 MNO サポート

#### 6.3.5.1 ネイティブ ダイヤラーとの通話

この機能により、BroadWorks Mobility (BWM) サービスを活用したモバイル ネットワーク オペレータ (MNO) 展開のサポートが追加されます。ユーザには BroadWorks モビリティ サービスが割り当てられ、少なくとも 1 つのロケーションが設定されていると想定されます。

ネイティブ ダイアラを介してコールを開始するユーザーの機能は、ネイティブ設定タグによって制御されます。有効にすると、アプリケーションはネイティブ ダイヤラーを起動し、コールを発信します。さらに、VoIP コールの可用性は **voip** タグによって制御されます。VoIP コールが有効または無効にできる展開要件に基づいています。

VoIP およびネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザーはどのオプションを使用するか選択できます。

<dialing-mode> タグは、ユーザが着信および発信コールの開始/受信方法を選択できるかどうかを制御します。ネイティブ コールと VoIP コールの両方を有効にする必要があります。

リリース 43.12 以降、ネイティブのダイヤル設定が拡張され、カスタムプレフィックスを発信コール番号に事前ペンドイングする機能が提供されます。これは、ダイヤルされた番号が FAC コードで始まる場合にのみ、Webex アプリから開始されたセルラー コールに適用されます。

この機能は、統合された Cisco BroadWorks アプリケーション サーバにリダイレクトされる代わりに、コールが Telecom バックエンドによって処理される MNO 展開を使用する顧客にとって便利です。セクション <dialing><native> の下に新しい <fac-prefix> タグが追加され、テレコムはこの問題を解決するために使用できます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <voip enabled="%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%"/>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
    </native>
  <dialing-mode enabled="%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%" default="%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	true	true、false	VoIP 通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	false	true、false	ネイティブ通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%	false	true、false	[基本設定 (Preferences)] の [コール設定 (Call Settings)] を使用して、ユーザによるダイヤルモードの選択を有効にします。
%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%	VoIP	voip、ネイティブ	[基本設定 (Preferences)] でダイヤルモードが有効になっている場合に選択されるデフォルトのダイヤルモードを指定します。
%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%	false	true、false	ネイティブ コールの可用性は、BroadWorks モビリティ サービスの割り当てとユーザに設定されているモビリティ ロケーションに依存するかどうかを制御します。
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	空	文字列	FAC コードで始まる番号への発信コールがセルラーコールとして開始される場合、先頭に付けるプレフィックスを指定します。 デフォルトでは、FACプレフィックスは定義されておらず、タグは空です。

**メモ1:**

少なくともvoipとネイティブのいずれかのコールを有効にする必要があります。

**メモ2:** ネイティブコールのみが有効な場合、MNO 展開では、クライアントが BWM アラートを無効にしないように、シングルアラートを無効にすることを推奨します。

**注3:**

ネイティブコールとvoipコールの両方が有効になっている場合、MNO展開では、ダブルアラートが発生しないように、シングルアラートを有効にすることをお勧めします。

### 6.3.5.2 通話中のコントロール

この機能により、モバイル Webex クライアントは、Cisco BroadWorks に固定されているモバイルデバイスの XSI ネイティブ コールを介して制御できます。XSI 通話コントロールは、次の場合にのみ使用できます。

- BroadWorks Mobility (BWM) サービスがユーザーに割り当てられ、
- BMWのモバイルIDは1つしか設定されていません、
- ネイティブダイヤルモードはユーザーによって選択されます(詳細については、セクション [6.3.5.1 ネイティブダイヤラーとの通話](#))。
- BMWのサービスを通じてBroadWorksに固定された通話があり、
- モバイル デバイスで進行中のセルラー コールがあります。

リリース 43.10 では、Webex アプリで提示された 2 つのセルラー コール間の関連付けを作成し、ユーザーが転送を完了するためのオプションを提供することで、コンサルティング転送の処理が向上します。また、ユーザが同じデバイスで 2 つの独立したセルラーコールを持っている場合、転送メニューが強化され、それらの間に関連付けが作成されていない場合でも、1 つを他方に転送できます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	MNO 環境の XSI コール制御を有効にします。
%XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT%	MNO_アクセス	MNO_Access, MNO_ネットワーク	アプリケーションで使用される XSI MNO 展開タイプを制御します。 次のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ MNO_Access - すべてのリモート (XSI) コールを、以下のノードで定義されたデバイスタイプで表示します。</li> <li>▪ MNO_Network - すべてのリモート (XSI) コールが表示されず。</li> </ul>



タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_1_WXT %, %DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_2_WXT %, %DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_3_WXT %	""	文字列	MNO_Access 展開タイプで使用するデバイス タイプ名。
%ENABLE_XSI_HOL D_CALLS_WXT%	true	true、false	XSI モバイル コールのユーザに対して [コール保 留 (Call Hold) ] アクションを使用可能にするか どうかを制御します。

### 6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル ペルソナ

モバイル リリース 42.12 では、Webex アプリにより、ユーザーは発信通話の開始時にリモート側に提示された通話回線 ID (CLID) を選択できます。

ユーザが Cisco BroadWorks モビリティ、モバイルネットワークオペレータ (MNO) 展開の典型的な構成、およびネイティブ通話が有効な場合、ユーザは通話しているユーザに提示する ID を選択できます。ユーザーはビジネスまたは個人の ID を選択できます。また、自分のアイデンティティを非表示にするオプションと、匿名として提示されるコールがあります。

VoIP コールの場合、ユーザーには CLID を制御するオプションもあります。この場合、使用可能なオプションは、ID を非表示にするかどうかを制御することだけです。

ペルソナ管理と CLID ブロッキングは、個別の設定オプションによって制御されます。

```
<config>
<services>
<dialing>
  <calling-line-id-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
  <mobility-persona-management
enabled="%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_DELIVERY_B LOCKING_WXT%	false	true、false	発信回線 ID の配信ブロックを有効にします。 これは、ユーザーのすべての発信タイ プのコールに適用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%	false	true、false	展開タイプが MNO_Access または MNO_Network として設定されている場合、ネイティブコールの個人管理を有効にします。(BroadWorks Mobility はネイティブコールに使用され、すべてのネイティブコールは BroadWorks にアンカーされます)

#### 6.3.5.4 ネイティブコールの通知

MNO を使用して展開されたユーザーの場合、この機能によりネイティブ通話の通知バナーが追加され、Webex アプリで制御できます。この通知はプッシュ通知に依存し、通話が確立されるとアプリケーション サーバーから送信されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT%	true	true、false	MOBILE_CALL_INFO プッシュ通知のサブスクリプションを有効にします。

#### 6.3.5.5 ネイティブ コールをコンバージド ミーティングに移動

MNO を使用して展開されたユーザーの場合、この機能により、1 対 1 コールの際の両方の当事者のネイティブ ボイス コールをミーティングにエスカレーションできます (相手が Webex ユーザーではない場合でも)。リモート ユーザーが Webex ユーザーの場合、ミーティングに参加すると、当事者は次のことができるようになります。

- ミーティング チャットで Webex を開始する
- ビデオを追加 (音声はネイティブコールで継続されることに注意してください)
- 画面/コンテンツを共有する
- ミーティング録画のトリガー

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	パワーアップを有効にします (招待とミーティング、ビデオミーティングアクション)。

### 6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット

Android Webex アプリ (モバイルおよびタブレット) のリリース 43.7 では、新しい通話制御ウィジェット (バブル) が正式に導入され、モビリティ サービスを使用して Cisco BroadWorks に固定されたネイティブ通話の追加の通話制御が提供されます。ウィジェットはネイティブUIの上部に表示され、ユーザーに次の操作を許可します。

- 保留/再開
- Blind/Consultative Transfer– Webex アプリの転送ダイアログにユーザーを配置します。
- 完全転送 – 協議転送を完了するオプションを提供します (リリース 43.10)
- ビデオミーティング – Webex ミーティングに参加者を移動します。
- 通話を終了

```
<config>
<services><calls>
  <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
  <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットの 保留 アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットの 転送および転送完了 アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットの ビデオミーティング アクションの可用性を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
TE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%			

### 6.3.6 着信発信者 ID

リリース 44.2

では、名前と番号に基づいてユーザーに提示された連絡先情報を制御する機能が追加されます。着信コール画面と着信コールの通知でユーザーに表示される情報と不在着信通知を制御するために、2つの設定オプションが追加されました。

#### 6.3.6.1 着信コール画面

着信通話画面にデータを表示することに関しては、AndroidとiOSの間にプラットフォームの違いがあります。着信コールの情報を表示するネイティブエクスペリエンスは次のとおりです。

- Android - 着信通話画面には、名前と番号の両方を表示する2つの別々のフィールドがあります
- iOS - 名前または番号のいずれかを表示するフィールドは1つだけです - 両方を使用できる場合、名前が優先されます

着信通話の新しい設定オプションを使用して、iOS Webex アプリが名前の横の通話画面に番号を表示することを確認できます (形式: *名前 (番号)*)。Android Webex アプリの動作は影響を受けません。

#### 6.3.6.2 着信通知

場合によっては、着信コールが通知としてユーザーに表示されます。スペースが限られているため、番号が常にそこに表示されるわけではありません。

着信コールの新しい設定オプションは、着信コール通知に表示される情報も制御します。有効になっており、名前と番号の両方が使用可能な場合、Webex アプリは名前の隣に番号を追加します (形式: *名前 (番号)*)。これは Webex アプリの動作で、Android と iOS の両方に適用されます。

### 6.3.6.3 不在着信通知

不在着信通知に設定パラメータが追加されました。

着信通話通知と同様に、リモート側の情報を制御するために使用できます。これにより、番号はリモートユーザーの表示名に追加され、不在着信通知に表示されます。これは Webex アプリの動作で、Android と iOS の両方に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <incoming-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </incoming-calls>
    <missed-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </missed-calls>
  </caller-id>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	着信コール画面 (iOS のみ) および通知の名前にその番号を追加するかどうかを制御します。
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	不在着信通知の名前にその番号を追加するかどうかを制御します。

#### メモ:

番号が表示名として配信されている場合、または表示名が番号で終わっている場合、Webex アプリは重複を回避し、番号を 1 回だけ表示します。

## 7 早期フィールドトライアル (ベータ) 機能

### 7.1 AI コーデック

リリース 44.7 以降、Webex アプリは新しい音声コーデック AI コーデック (xCodec) のサポートを導入します。このオーディオコーデックは、より良い通話品質を実現するために、不利なネットワーク条件で使用されます。Webex アプリの Webex Media Engine は、デバイスの機能をチェックし、メディア品質を追跡します。また、設定ファイルでサポートおよび有効化されている場合は、AI コーデックを使用できます。

AI コーデックは Opus コーデックとの組み合わせでのみ機能します。これは、Opus と AI コーデックの両方が SDP ネゴシエーション中に双方がアダプタイズし、ネゴシエートする必要があることを意味します。

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      <codec name="opus" priority="1" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="HP" priority=".99" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="ULP" priority=".98" payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4" payload="" framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
    </codecs>
  </audio>
</calls>
</services>
</config>
```

## 8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング

次の表に、Cisco BroadWorks 版 Webex のカスタム タグを一覧表示し、UC-One のレガシーカスタム タグに一致させます。

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_DESKTOP%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	適用なし	%REJECT_WITH_XSI_MODE_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	適用なし	%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_MOBILE%
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	適用なし	%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_DESKTOP%	適用なし
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	%MAX_CONF_PARTIES%	適用なし
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	%ENABLE_CALL_PULL_DESKTOP%	%ENABLE_CALL_PULL_MOBILE%
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	適用なし	%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%MWI_MODE_WXT%	%DESKTOP_MWI_MODE%(デスクトップモード)	%MWI_MODE_MOBILE%
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL%	適用なし
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	%ENABLE_FORCED_LOGOUT%	適用なし
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	%FORCED_LOGOUT_APPID%(強制ログアウト)	適用なし
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	適用なし	適用なし
%ENBLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	適用なし	適用なし
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	%USE_RPORT_IP%	%ENABLE_USE_RPORT_MOBILE%
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	適用なし	%RPORT_USE_LOCAL_PORT_MOBILE%
%USE_TLS_WXT%	%USE_TLS%	適用なし
%SBC_ADDRESS_WXT%	%SBC_ADDRESS%	%SBC_ADDRESS%
%SBC_PORT_WXT%	%SBC_PORT%	%SBC_PORT%
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	%USE_PROXY_DISCOVERY%	%USE_PROXY_DISCOVERY_MOBILE%
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	%USE_TCP_FROM_DNS%	適用なし



Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	%USE_UDP_FROM_DNS%	適用なし
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	%USE_TLS_FROM_DNS%	適用なし
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	%DOMAIN_OVERRIDE%(ドメインの上書き)	%DOMAIN_OVERRIDE%(ドメインの上書き)
%SOURCE_PORT_WXT%	%SOURCE_PORT%(ソースポート)	%SOURCE_PORT%(ソースポート)
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES%を使用	適用なし
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	%TCP_SIZE_THRESHOLD%	適用なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	%SIP_REFRESH_ON_TTL%	適用なし
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_DESKTOP%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_MOBILE%
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_PEM_SUPPORT_DESKTOP%	適用なし
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	適用なし	適用なし
%SRTP_ENABLED_WXT%	%USE_SRTP%	%SRTP_ENABLED_MOBILE%
%SRTP_MODE_WXT%	%SRTP_PREFERENCE%	%SRTP_MODE_MOBILE%
%ENABLE_REKEYING_WXT%	%ENABLE_RE_KEYING_DESKTOP%	%ENABLE_RE-KEYING_MOBILE%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	%ENABLE_RTCP_MUX%	%ENABLE_RTCP_MUX%
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL%	適用なし
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	%CHANNEL_HEARTBEAT%(チャンネルハートビート)	%CHANNEL_HEARTBEAT_モバイル%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%XSI_ROOT_WXT%	%XSI_ROOT%	%XSI_ROOT%
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	適用なし	%XSI_ACTIONS_PATH_MOBILE%
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	適用なし	%XSI_EVENTS_PATH_MOBILE%
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	適用なし	%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_MOBILE%
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	適用なし	%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_MOBILE%
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLI_ND_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_URL%
%USE_MEDIASEC_WXT%	%USE_MEDIASEC_MOBILE%	%USE_MEDIASEC_DESKTOP% (メディアセックデスクトップを使用)
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	%ENABLE_CALL_CENTER_DESKTOP%"	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_R_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_R_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_A_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_A_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_PAVISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_PAVISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_STANDARD_SETTINGS_CC_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE%
%ENABLE_DIALING_CALLBACK_WXT%	適用なし	適用なし
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_DESKTOP%	適用なし
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	適用なし	%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_MOBILE%
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	%ENABLE_CALL_RECORDING_DESKTOP%	%CALL_RECORDING_MOBILE%
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	適用なし	%ENABLE_SINGLE_ALERTING%
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	%ENABLE_CALL_PARK_DESKTOP%	適用なし
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_MODE_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_PORT_WXT%	適用なし	適用なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	適用なし	適用なし
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	適用なし	適用なし
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	適用なし	適用なし
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	適用なし	適用なし
%DIALING_NATIVE_PREFIX_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_DESKTOP%	適用なし
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_DESKTOP%	適用なし
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	適用なし	適用なし
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	適用なし	適用なし
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	適用なし	適用なし
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	適用なし	適用なし

**メモ:** N/A は、UC-One で機能を制御する対応するカスタム タグがないことを示します。デスクトップ タグとモバイルレガシー タグの両方に N/A を指定すると、Cisco BroadWorks 版 Webex タグが新しく、UC-One のカスタム タグで制御されなかった新しい機能または既存の機能のいずれかを制御します。

## 9 付録A: TLS 暗号

---

BroadWorks 版 Webex クライアントは、追加のセキュリティ強化を備えた OpenSSL に基づいた Cisco SSL を使用します。

## 10 付録B: DM タグプロビジョニング スクリプト

カスタム DM タグの数は、多くの顧客が新しい設定パラメータのタグを好むため、リリースごとに増加しました。これらのカスタム DM タグをより簡単にプロビジョニングするためのメカニズムを提供するために、このセクションには、カスタム DM タグに値を割り当てるために、アプリケーション サーバ (AS) 側で実行できるスクリプトが含まれています。このスクリプトは、特にカスタム DM タグの大部分が使用される新しい展開を意図しています。

このスクリプトは、カスタム DM タグが作成されている新しい展開でのみ有効であることに注意してください。既存のカスタム DM タグを変更するには、次のスクリプトのコマンドを「add」から「set」に変更する必要があります。

カスタム タグがいくつか設定されているスクリプト テンプレート (実際の展開では、カスタム タグのより大きなリストを入力する必要があります)。次の例はモバイル向けです。デスクトップの場合は、Connect\_Tags の代わりに BroadTouch\_tags タグセットを使用します。タブレットの場合は、Connect\_Tags の代わりに ConnectTablet\_Tags タグセットを使用します。

```

%% ***** Connect_Tags - read file *****
%%
%% Instructions:
%% -----
%% - This read file can be used to create, add and set Webex for BroadWorks
%% client custom tags
%% - Use %% to comment out any steps not required based on deployment specific
%% service requirements:
%% Step 1 -- for new deployments only, create initial tag set label
%% Step 2 -- add a new custom tag (an entry is required for each new tag)
%% Step 3 -- set value for an existing custom tag (entry required for each applicable tag)
%% Step 4 -- display and visually verify tag settings
%%
%% - Edit, modify file as needed respecting command syntax. Save file (e.g. WxT_Tags.txt)
%% - SFTP read file to AS under directory /tmp
%% - Login to AS, bwcli (login as admin)
%% - Execute the following command from bwcli: AS_CLI> r /tmp/ WxT_Tags.txt
%% - Verify results
%%
%% -----
%% Step 1: Create Connect tag set label - Connect_Tags
%% -----
quit all;System;DeviceTagSet
add Connect_Tags
%% -----
%% Step 2: Add WxT for BWKS custom tags
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below-----
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% true
%% -----
%% Step 3: Set Connect custom tags (if tag already exists)
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below

```



```

set tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% isOverridable true
tagvalue false
%% -----
%% Step 4: Verify custom tags have been correctly defined and set
%% -----
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
get tagSetName Connect_Tags
quit all

```

次のリストには、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるすべてのカスタム タグと、例 (デフォルトまたは推奨) の値が含まれます。一部のタグには、対応する展開に固有の値 (サーバアドレスなど) が必要であることに注意してください。そのため、これらのタグはスクリプトの最後に追加されますが、空のままであり、それらを指定するために追加のセットコマンドを追加する必要があります。

## 10.1 デスクトップ

```

add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_WXT% false

```

```

add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT% 900
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNr_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%

```

```

add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %FORCED_LOGOUT_APPID_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT% 120
add tagSetName BroadTouch_tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true

```

```

add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved

```

## 10.2 モバイル

```

add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName Connect_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName Connect_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName Connect_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false

```



```

add tagSetName Connect_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName Connect_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFN_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName Connect_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false

```

```

add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false

```

```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
```

### 10.3 タブレット

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
```

```

add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%
false

```



```

add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PA_I_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%
true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false

```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
```

## 10.4 システム タグ

以下は、BroadWorks 版 Webex で使用されるシステム タグの一覧です。

```
%BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
%BWLINEPORT-n%
%BWHOST-n%
%BWAUTHUSER-n%
%BWAUTHPASSWORD-n%
%BWE164-n%
%BWNAME-n%
%BWEXTENSION-n%
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%
%BWLINEPORT-PRIMARY%
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%
%BWE911-CUSTOMERID%
%BWE911-SECRETKEY%
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
%BW-MEMBERTYPE-n%
%BWUSEREXTID-n%
```

## 11 頭字語と略語

---

このセクションでは、このドキュメントに含まれる頭字語と略語を一覧表示します。頭字語と略語は、その意味とともにアルファベット順に列挙されています。

ACB	自動コールバック
ACD	自動コール分布
ACR	匿名コールの拒否
AES	高度な暗号化標準
ALG	アプリケーションレイヤゲートウェイ
API	アプリケーションプログラミングインターフェイス
APK	アプリケーションパッケージ
APNS	Appleプッシュ通知サービス
ARS	自動ビットレートの選択
AS	アプリケーションサーバ (Cisco BroadWorks)
AVP	オーディオ ビジュアル プロファイル
BW	ブロードワークス
BWA	BroadWorksの拠点
BWKS	ブロードワークス
BWM	BroadWorks モビリティ
BYOD	オリジナルデバイスの導入
CC	コールセンター
CFB	通話転送がビジー
CFNA	着信転送の応答なし
CFNR	コール転送に到達できません
CIF	共通の中間フォーマット
CLI	コマンドラインインターフェイス
CLID	通話回線 ID
CLIDB	通話回線 ID の配信ブロック

CRLF	キャリッジリターンラインフィード
CS	回路スイッチ
CSWV	コール設定 Web ビュー
CW	コール待機
DB	データベース
DM	デバイスの管理
DND	応答不可
DNS	ドメイン名システム
DPC	デスクフォン コントロール
DTAF	デバイスタイプのアーカイブファイル
ECACS	緊急呼 アドレス変更サービス
FMC	固定モバイル収束
FQDN	完全修飾ドメイン名
HMAC	ハッシュメッセージ認証コード
ICE	インタラクティブ接続の確立
iLBC	インターネット低ビットレートコーデック
IM	インスタントメッセージ
IM&P	インスタントメッセージとプレゼンス
IOT	相互運用性テスト
IP	インターネットプロトコル
JID	Jabber 識別子
M/O	必須/オプション
MNO	モバイルネットワークオペレータ
MTU	最大伝送ユニット
MUC	マルチユーザーチャット
MWI	メッセージ待機インジケータ
NAL	ネットワーク抽象化レイヤ

NAPTR	命名権ポインタ
NAT	ネットワークアドレス変換
OTT	トップページ
PA	パーソナルアシスタント
PAI	P-アサート済み-アイデンティティ
PEM	P-アーリーメディア
PLI	画像損失の表示
PLMN	パブリックランドモバイルネットワーク
PN	プッシュ通知
QCIF	四半期共通中間フォーマット
QoS	サービスの質
RO	リモートオフィス
RTCP	リアルタイム制御プロトコル
RTP	リアルタイムプロトコル
SaaS	サービスとしてのソフトウェア
SAN	サブジェクト代替名
SASL	シンプルな認証とセキュリティレイヤ
SAVP	安全な音声ビデオプロファイル
SBC	セッション ボーダー コントローラ
SCA	共有コール アピアランス
SCF	セッションの継続性機能
SCTP	ストリーム制御伝送プロトコル
SDP	セッション定義プロトコル
SEQRING	シーケンシャルリング
SIMRING	同時リング
SIP	セッション開始プロトコル
SNR	信号対ノイズ比

SNR	単一番号リーチ
SRTCP	安全なリアルタイム制御プロトコル
SRTP	安全なリアルタイム転送プロトコル
SSL	セキュアソケットレイヤー
STUN	NAT用セッショントラバーサルユーティリティ
SUBQCIF	サブクォーターCIF
TCP	伝送制御プロトコル
TLS	トランスポート レイヤ セキュリティ
TTL	生きる時間
リレー NAT を使用した TURN	トラバーサル
UDP	ユーザーデータグラムプロトコル
UI	ユーザーインターフェイス
UMS	メッセージング サーバ (Cisco BroadWorks)
URI	Uniform リソース識別子
UVS	ビデオサーバー (Cisco BroadWorks)
VGA	ビデオグラフィックスアレイ
VoIP	ボイスオーバー IP
VVM	ビジュアル ボイスメール
WXT	Webex
XMPP	Extensible Messaging and Presence プロトコル
XR	拡張レポート
Xsp	Xtendedサービスプラットフォーム
Xsi	Xtendedサービスインターフェイス